

昭和 41 年度

地力保全基本調査成績

〔北見地域 常呂郡端野町〕

北海道立中央農業試験場

14

序

現状における土地生産力は諸種の土襲的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつつある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成をえて基本的土襲調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和41年度に行なつた4地域、6町をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和42年3月

北海道立中央農業試験場
三島京治

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取りまとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土襲断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土襲統および区の設定並びに土襲生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土襲統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部土襲第3課)によつた。

土襲統および土襲区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土襲第1研究室の土性図を参照した。

調査職員氏名

化学部	部長	長谷部 俊 雄
"	土襲改良科 科 長	後 藤 計 二
"	" 第1係長	小 林 荘 司
"	" 研究職員	高 尾 欽 彌
"	" "	菊 地 晃 二
"	" "	水 元 秀 彰

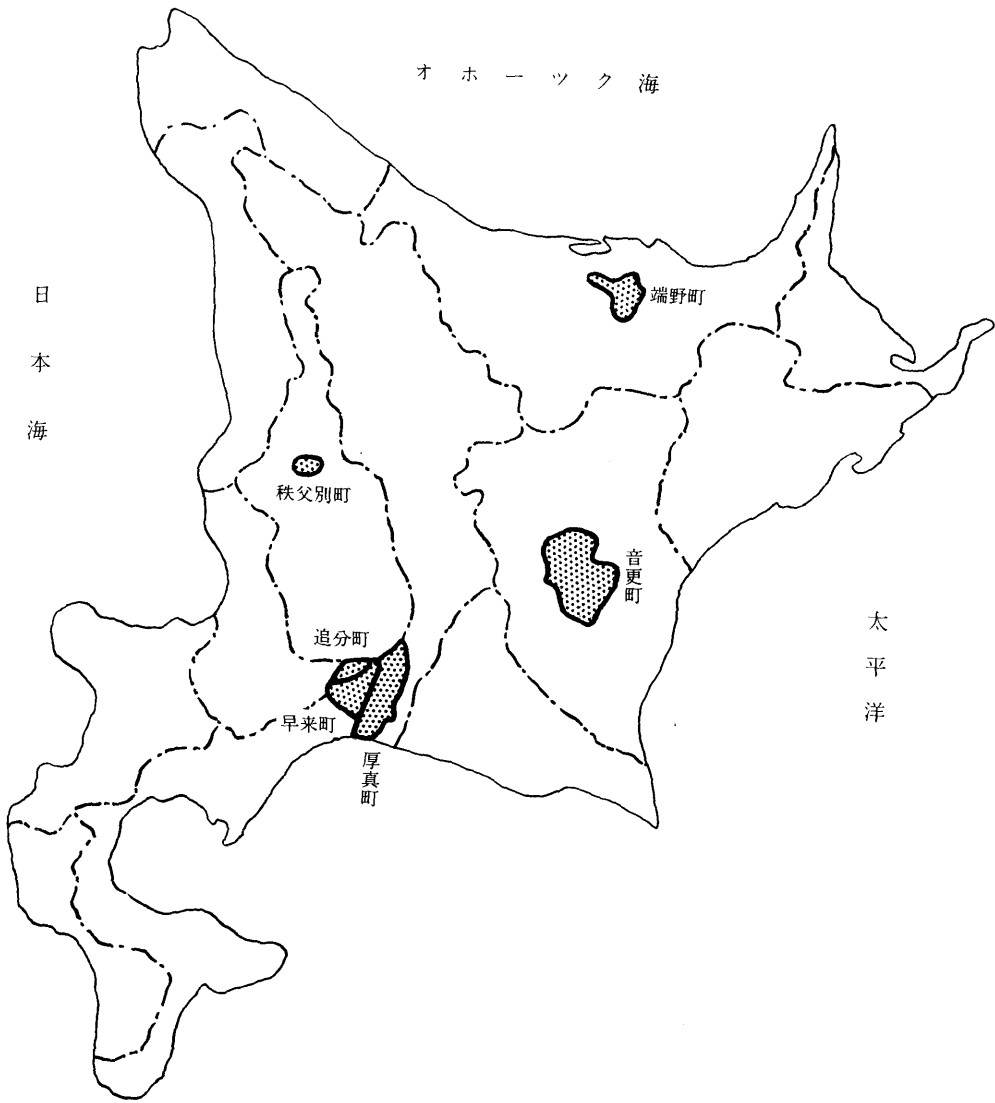
主に土襲分析を担当した職員

化学部	土襲改良科 研究職員	谷 口 末 吉
"	" "	村 上 清 子

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 郡・市・町・村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度 調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
十勝中部	河東郡音更町	1,446	20,759	—	—	1,446	20,759
北見	常呂郡端野町	982	4,949	—	—	982	4,949
空知北部	雨竜郡秩父別町	2,520	419	—	—	2,520	419
樽前山南山麓	勇払郡厚真町	2,365	1,674	—	—	2,365	1,674
	勇払郡早来町	724	2,277	—	—	724	2,277
	勇払郡追分町	323	911	—	—	323	911
合 計		8,360	30,989			8,360	30,989

調査地区位置図



北見地域端野町

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 網走支庁管内、常呂郡端野町

(2) 調査面積

郡市町村名	農地総面積 (ha)				調査対象面積 (ha)			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
常呂郡 端野町	982	4,949	—	5,931	982	4,949	—	5,931

過年度調査面積 (ha)				本年度調査面積 (ha)				次年度以降調査面積 (ha)			
水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
—	—	—	—	982	4,941	—	5,931	0	0	0	0

2) 気 候

本町は北海道の東部に存在し、オホーツク海沿岸内陸地域に属する。この地帯もオホーツク沿岸地域より若干程度は低いがオホーツク海気団の影響は免れ得ない。このためしばしば冷湿害を受ける。特にこの地帯の水稲は低温豪照による所謂冷害の被害程度が大きい。また荳類もこのような年には甚しい低収となる。

気候は一般に冷涼で、降雨量が少ない。春季の強風乾燥期には一部風蝕を受ける地点がある。

網走測候所の観測成績は次表の如くである。

項目	月別								
	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気 温 (°C)	平 均	3.6	8.7	12.4	17.0	19.5	15.8	10.1	3.1
	最高平均	8.2	13.5	16.7	20.9	23.5	20.1	14.8	6.9
	最低平均	-0.2	4.6	8.8	13.8	16.3	12.4	6.3	-0.2
降水量 (mm)	平 均	46.8	70.5	64.6	89.3	98.8	120.6	81.4	67.4
湿度 (%)		73	77	84	88	87	83	77	72
風 速 (m/s)		4.6	4.3	3.1	2.7	2.9	3.7	4.1	4.6
日照時間 (時)		196.7	191.1	198.6	191.7	199.7	198.6	179.2	133.6

晩霜 5月15日、初霜 10月17日

3) 土地条件

(1) 地 形

本調査地区の略々中央部を常呂川が南北に流れ、この兩岸には低平地が分布し、主要な水田地帯になっている。この低平均の東側には標高60~100mの波状性緩傾斜~傾斜地が分布し、隣接の美幌町に連続している。また低平地の西側にはやや急峻な山地が存在し、これを越えたところは波状を呈する標高100~160mの台地が存在し、隣接の北見市に連っている。これら東西の台地は本町の主要な畑作地帯を形成している。

(2) 地 質

本調査地区の中央部を流れる常呂川の両岸には砂岩、赤色珪岩、凝灰質の風化物を母材とする沖積土壌が分布し、更に常呂川注ぐ無数の小河川の流域に小規模な沖積土壌（河成）及び扇状堆土が分布している。これらの母材は複雑で砂岩、赤色珪岩、頁岩、泥岩、凝灰質の風化物から構成されている。常呂川の東川に分布する緩波状台地は洪積期に流出した屈斜呂軽石流堆積物に由来するものと考えられ、更にこれの2次堆積物からなっている場合もある。

常呂川流域の西側に存在する標高200～300mの山地は古生層砂岩及びその変成岩からなり、この山地の裾にはこの岩石を母材とする崩積土、扇状堆土が分布し、局所的には軽石流の2次堆積物を母材とする土壌も存在する。この山地の西側に存在する波状性台地は洪積期の堆積物からなるが、その母材は雑多で周辺山地を構成する古生層砂岩、赤色珪岩、中生層頁岩、三紀層泥岩、砂層、軽石流堆積物の2次堆積物等の風化物からなっている。また一部はこれらを母材とする崩積土も存在する。この台地を侵蝕して流れる小河川の流域には沖積土や扇状土が分布する。

尚新しい水積土壌を除いて何れも極く薄層の火山灰が表層を被覆しているが、耕土においては判然としない。

(3) 侵蝕状況

本調査地東部の軽石流堆積物を母材とする台地土壌は耐侵蝕性に乏しいため比較的侵蝕を受け易く、傾斜地ではかなりの侵蝕が見られ、また緩傾斜地も侵蝕が見られる。

西部の波状性洪積台地は解析況がやや発達し、傾斜地が多く水蝕の発生がかなり見られる。

(4) 交通状況

本調査地の中央を概ね常呂川に沿って一般国道39号線が通っており、東部の台地は号線道路が縦横に走り交通は良好である。これに対し西部の波状性台地は地形が複雑なため縦横に道路網が発達出来ず、蛇行した道路が分布するが交通条件はやや劣る。今後農業の機械化にともない農道の整備が必要な事項になると考えられる。

4) 土地利用及び営農状況

a) 経営面積（1戸当平均ha）

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
5.93	1.0	4.90	—	0.03

b) 作付面積（1戸当平均ha）

作物	水稲	麦類	荳類	馬鈴薯	ビート	ハツカ	牧草	その他
面積	0.93	0.92	1.92	0.54	0.76	0.32	0.54	—

c) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳牛	豚	緬羊	鶏
飼育戸数	762	116	139	288	479
飼育頭数	1,022	623	400	411	13,079
1戸当平均飼育頭数	1.3	5.4	2.9	1.4	27.3

d) 労働の関係（1戸当人数）

家族人数	労力換算	季節雇	臨時雇
	人	人	延人員 人
6.3	3.2	0.2	34.6

本町は常呂川流域の水田経営地帯と、この東西に分布する台地の畑作経営地帯とに分けられる。

本地域の水稲は稲作限界地帯に含まれると思われる、オホーツク気団の影響によつてしばしば低温年がおとずれ、この年には水稲は障害型或は生育遅延により大きな減収を招いて所謂冷害を受ける。従つて障害型、生育遅延型の技術的克服が目下の重要事項となるが、現在の技術でいかに安定収量を得るかについて更に努力する必要がある。

畑作は作付作物が多種に亘り集約的傾向を帯びることが特徴であるが、作物の主体は豆類であり、馬鈴薯、ビートがこれに加つている。経営面積が一般にやや少なく、機械化を進め、或いは酪農化を進めて経営を発展させて安定確立を得るには経営面積の狭少が大きな隘路の一つと考えられる。

2 土壤類型区分及び説明

1) 土壤統一覧及び土壤区一覧

(1) 土壤統一覧

(水 田)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫層を混在する砂層	酸化沈積物	土性		泥炭	黒泥	グライ	母材堆積様式
					表土	次層				
端野中央	YR/YR	表層腐植層	あり	あり	粘質	砂質	—	—	—	非固結水成岩水積
川向沢	Y/YR	表層腐植層なし	なし	"	強粘質	"	—	—	あり 8.5cm以下	"
端野南	Y/YR	"	"	"	粘質	"	—	—	—	"
北登中央	Y/YR	"	あり	"	"	"	—	—	—	"
豊美中央	Y/YR	"	なし	"	強粘質	粘質	—	—	—	"
緋牛内東	Y/YR	表層腐植層	"	"	"	強粘質	—	—	あり 6.5cm以下	"
端野中央西	YR/Y	"	"	"	"	"	—	—	—	"
端野中央北	YR/GY	表層多腐植層	"	"	"	"	あり 4.5cm以下	—	あり 4.5cm以下	非固結水成岩 ヨシ水積 集積

(畑)

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫層 礫を混在する砂層	酸化沈積物	土 性		母材、堆積様 式
					表 土	次 層	
開 拓	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	粘 質	強粘質	非固結火成岩 洪 積
川 向 東	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	粘 質	強粘質	" "
緋 牛 内	" / "	表層腐植層なし	"	"	"	粘 質	非固結水成岩
川 向 西	" / "	表層腐植層	"	"	"	壤 質	" "
協 和	" / "	"	"	あり	"	粘 質	" "
豊 美 南	" / "	表層腐植層なし	"	"	"	"	" "
豊 美 西	" / "	"	"	"	"	"	" "
川向中央	" / "	"	"	なし	"	"	" "
忠 志	" / "	"	"	"	"	"	水 積
端 野 北	" / "	"	"	"	砂 質	"	" "
端 野 東	" / Y	"	あり	"	"	砂 質	" "
忠志小沢	" / YR	"	"	"	強粘質	粘 質	" "
豊美東沢	" / "	"	"	あり	粘 質	"	" "
川 向 南	" / Y	"	なし	"	"	強粘質	" "
北 登 西	" / YR	表層腐植層	あり	なし	"	粘 質	固結水成岩 崩 積
川向南東	" / "	"	"	"	"	"	" "
豊 美 東	" / "	"	"	"	"	壤 質	" "
仁 頃	" / "	"	"	"	"	粘 質	固結水成岩 変成岩崩積
端 野 西	" / "	表層腐植層なし	"	"	"	"	変成岩
仁頃河岸	" / "	表層腐植層	なし	あり	"	強粘質	水積(扇状堆土) 非固結水成岩
仁頃河段	" / "	"	"	なし	強粘質	粘 質	" (")

(2) 土壌区一覧

(水 田)

土 壤 区 名	簡 略 分級式	水田面 積(ta)	土 壤 区 名	簡 略 分級式	水田面 積(ta)
端野中央—端野中央	IItd1	266	豊美中央—豊美中央	IIIpII n	71
川 向 沢—川 向 沢	IItp1	142	緋牛内東—緋牛内東	IIp1fn	122
端 野 南—端 野 南	IItp	53	端野中央西—端野中央西	IIprfn	204
北登中央—北登中央	II dpl	71	端野中央北—端野中央北	II t1r fn	53

(畑)

土 壤 区 名	簡略分級式	畑 面 積 (t _a)	土 壤 区 名	簡略分級式	畑 面 積 (t _a)
開 拓-開 拓	IIIeIItnfs	472	忠志小沢-忠志小沢	IIIIdIItgpi	42
川 向 東-川 向 東	IIIeIItnfs	8	豊美東沢-豊美東沢	IIItdwIipi	59
緋 牛 内-珪 牛 内	IItdwfse	1582	川 向 南-川 向 南	IIIwIItpfn	42
川 向 西-川 向 西	IIIfII dne	295	北 登 西-北 登 西	III dsII tgpnie	135
協 和-協 和	III dwII tpfise	67	川 向 南 東-川 向 南 東	III dsII tgpie	67
豊 美 南-豊 美 南	III wII tdpfise	34	豊 美 東-豊 美 東	III dsII tie	438
豊 美 西-豊 美 西	III tdII pwfise	387	仁 頃-仁 頃	III seII tdgp	135
川 向 中 央-川 向 中 央	III sII tpe	404	端 野 西-端 野 西	II tdgse	166
忠 志-忠 志	II tp	42	仁 頃 河 岸-仁 頃 河 岸	II tws	59
端 野 北-端 野 北	II t	135	仁 頃 河 段-仁 頃 河 段	III wII f	42
端 野 東-端 野 東	II td(w)	337			

2) 土 壤 統 別 説 明

水 田

端 野 中 央 統

(1) 土 壤 統 の 概 説

A 土 壤 統 の 特 徴

A-1 断 面 の 特 徴

第1層は厚さ12cm内外で腐植含量6%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2。粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。糸根状の酸化沈積物あり、ち密度14で疎である。pH(H₂O)5.7前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量7~8%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2。未風化小円礫を含み、角柱状構造で発達程度は弱度である。膜状の酸化沈積物を含み、ち密度20で中である。pH(H₂O)5.9前後、下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植含量7~8%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度2。未風化小円礫を含む、細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度18で疎、pH(H₂O)5.9前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ20cm内外で腐植含量4%内外、土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3~4。未風化小円礫に富む、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15で疎である。pH(H₂O)6.2前後、下層との境界は明瞭である。

第5層は地表下概ね40cm以下で、腐植を欠き、未風化小円礫からなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町字三区 試坑№北35

第1層	0~12cm	腐植に富む黒色(10YR ^{2/1})のCL、発達弱度の細粒状構造、糸根状の酸化沈積物を含み、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り潤、境界平坦明瞭。
第2層	12~18cm	腐植に富む黒色(10YR ^{2/1})のCL、未風化小円礫を含み、発達弱度の角柱状構造、膜状の酸化沈積物を含む、ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り湿、境界波状。
第3層	18~26cm	腐植に富む黒色(10YR ^{2/1})のLiC、未風化小円礫を含む、発達弱度の細粒状構造、小中孔に富む、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界波状。
第4層	26~43cm	腐植を含む褐色(7.5YR ^{3.5/3})SL、未風化小円礫に富む、発達弱度の粒状構造、小中孔に富む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、境界明瞭。
第5層	43~	未風化小円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒徑組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0~12	3.2	22.3	26.1	29.6	22.0	CL	3.70	0.36	10	6.3	5.7	5.2
2	12~18	2.3	19.8	28.5	28.8	22.9	CL	4.90	0.49	10	8.4	5.9	5.1
3	18~26	1.6	38.5	16.1	19.5	25.9	LiC	4.70	0.48	10	8.1	5.9	5.1
4	26~43	3.1	45.5	27.2	14.0	13.3	SL	2.63	0.36	9	4.5	6.2	5.0

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	P ₂ O ₅		
1	1.20	39.6	15.1	1.2	0.2	38.0	2.29	5.5	2.29	2.19	989	0.84
2	1.20	38.3	18.2	0.9	0.3	47.4	10.8	—	10.8	10.6	1,160	1.67
3	0.70	43.9	18.9	2.0	0.4	43.1	9.4	2.7	9.4	4.5	1,225	—
4	1.90	36.2	36.2	1.4	1.6	100.0	3.3	3.3	3.3	2.9	1,690	—

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接または類似する統としては端野中央西統、端野南統等があるが、端野中央西統とは乾湿が異り、端野南統とは母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 常呂川流域の低平地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ、冷湿害をしばしば受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

主として水稻が単作されている。

E 農業上の留意事項

礫層が浅く漏水し易いから塩基の流亡、土壌養分の流亡が問題になる。施肥面において窒素の施用に注意が必要である。

F 分布 端野町字二区、三区の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
端 野 中 央—端 野 中 央	II tdl

② 土壌区別説明

端野中央—端野中央

示 性 分 級 式 (水 田)

	土 壤	表 土	有 効	耕 層	湛 水	酸 性	遊 離	自 然	保 固	養 分	障 害	災 害																							
	生 産 力 可 能 性 等 級	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性	土 質 粘 土 性																							
	tdgp	l	r	w	f	n	i	a																											
(稲)	II	II	II	I	3	1(2)	II	2	2	I	3	2	1	-	-	-	-	I	1	2	2	I	1	1	2	1	2	-	1	1	I	1	1	1	1
(畑)	III	III	III	I	3	1(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-											
	簡略分級式		II tdl																																

(畑) III td If

A 土壌区の特徴

この土壌区は端野中央統に属する。表土の厚さは26cm内外で中庸であるが作土は14cm内外である。有効土層は40cm内外でやや浅い。表土は礫なく中粗質で粘着性中庸、作土下50cmのち密度中庸で湛水透水性はやや大である。グライ層なく、下層は礫層になっている。

保肥力大、磷酸固定力中庸、土層の塩基状態は中庸で自然肥沃度は中庸である。作土の養分含量は

やや多い方であるが、加里が少ない。特殊の障害性、災害性は存在しない。

本区は凝灰質（軽石風化物）を母材とした透水良好な乾田で、水田化作用は極く少なく殆んど畑状態に近似している土壌で、まま漏水気味な水田と考えられる。

B 植生及び利用状況

大部分水稻が栽培されており、一部は畑地に利用され、そ菜等が栽培されている。

C 地力保全上の問題

土壌は凝灰質を母材としているため一般に瘠薄化し易く、加えてやや漏水気味なので塩基、珪酸の補給が必要である。土壌の磷酸含量は多いが、気温の低い地帯なので磷酸、加里を中心に施肥を行なうべきであろう。

D 分布 端野町字1区の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和42年3月31日

川 向 沢 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外で腐植含量4%内外、土性はCLが主である。色は7.5Yで彩度1、明度4。細粒状構造で発達程度は弱度である。膜状の酸化沈積物を含み、ち密度10前後で疎である。pH(H₂O)5.3前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は7.5Yで彩度1、明度5。角柱状構造で発達程度は弱度である。膜状の酸化沈積物に富み、ち密度19で中である。pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は波状である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度5、明度3。粒状構造で発達程度は弱度である。斑状のマンガン沈積物を含む、ち密度14で疎である。pH(H₂O)6.4前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで彩度2、明度7。単粒構造で小中孔に富む、雲状の酸化沈積物を含む。ち密度12で疎である。下層との境界は明瞭である。

第5層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はCが主である。色は10YRで彩度1、明度7。均質連結状で、斑状、管状の酸化沈積物に富む。ち密度12で疎、下層との境界は明瞭である。

第6層は地表下概ね85cm以下で腐植を欠き土性はS~SLである。色は7.5GYで彩度1、明度4。単粒構造で、グライを呈する。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字川向 試坑№北61

第1層	0~14cm	腐植を含む灰色(7.5Y ⁴ /1)のLiC、発達弱度の細粒状構造、膜状の酸化沈積物を含む。ち密度10で疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第2層	14~25cm	腐植を欠く灰色(7.5Y ⁵ /1)のCL、発達弱度の角柱構造、膜状の酸化沈積物に富む、ち密度19で中、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り湿、境界波状、

第3層	25~43cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/3)のLiC、発達弱度の粒状構造、細小孔に富み、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第4層	43~65cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR7/2)のS、単粒構造、細小孔に富み、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度1.2で疎、調査時の湿り湿、境界明瞭
第5層	65~85cm	腐植を欠く灰褐(10YR7/1)のC、均質連結状、斑状、管状の酸化沈積物に富む、ち密度1.2で疎、調査時の湿り湿、境界明瞭
第6層	85~	腐植を欠く青色(7.5GY4/1)のSL、均質連結状、ち密度1.2で疎、グライを呈する。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0~14	1.1	9.6	45.7	23.8	20.9	CL	2.83	0.33	9	4.9	5.3	4.8
2	14~25	0.6	63.0	22.5	7.9	7.9	LS	1.70	0.20	9	2.9	6.0	4.7
3	25~43	4.1	2.3	48.9	19.8	29.0	LiC	—	—	—	—	6.4	4.9

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30°CNH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	P ₂ O ₅		
1	1.90	26.0	14.0	6.0		53.8	22.9	7.9	22.9	10.1	1.030	13.9
2	2.10	24.7	20.3	3.9		82.1	10.4	—	10.4	4.0	1.130	2.03
3	0.30	27.8	22.6	5.9		81.2	—	—		1.7	1.210	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては川向西統、協和統、緋牛内統があるが、何れも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(砂岩風化物及び凝灰質)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形

常呂川に注ぐ小河川の流域に分布する低平地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2°C、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

主として水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

腐植含量が少ないので堆厩肥、素わらの施用が必要であり、滲透水の影響によつて地下水位の高いところは明渠、暗渠排水の必要があろう。

F 分布 端野町字川向、協和、緋牛内の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和42年3月31日

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
 年 月 日 昭和42年3月31日

端 野 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外で腐植含量3~4%、土性はCLで主である。色は5Yで彩度1、明度3。細粒状構造で発達程度は弱度である。膜状、糸根状の酸化沈積物あり、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.6、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は2.5Yで彩度2、明度5のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。膜状、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度24中である。pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量5%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度2。粒状構造で発達程度は中度である。雲状の酸化沈積物を含む、ち密度17で疎である。下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YRで彩度4、明度4~5。粒状構造で発達程度は弱度である。管状の酸化沈積物を含む、細小孔に富む。ち密度17前後で疎である。下層との境界は明瞭である。

第5層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はS~SLである。色は10YRで彩度3、明度5。単粒状構造、ち密度17前後で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字三区 試坑No北63B

第1層	0~14cm	腐植を含む黒色(5Y3/1)のCL、発達弱度の粒状構造、糸根状の酸化沈積物を含む。ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	14~25cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y5/2)のLiC、発達中度の細塊構造、細小孔を含む、膜状酸化沈積物を含む~富む。ち密度24で密、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	25~42cm	腐植を欠く黒色(10YR2/2)のCL、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、雲状の酸化沈積物を含む、ち密度17で疎、調査時の湿り湿、境界漸変
第4層	42~73cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/4)のCL、発達弱度の塊状構造、細小孔に富む、グライ斑を含む、ち密度17で疎、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第5層	73~	腐植を欠く黄褐(10YR5/3)のSL、単粒構造、細小孔を含む、ち密度13で疎、調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0~14	1.5	2.5	45.2	34.7	17.5	CL	2.04	0.24	9	3.5	5.6	4.2
2	14~25		1.2	29.7	41.4	27.7	LiC	1.14	0.17	7	2.0	5.8	4.7

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30℃NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	P ₂ O ₅		
1	2.50	2.10	9.3	1.4		44.4	9.2	7.5	9.2	14.2	79.6	0.87
2	0.60	24.3	16.5	3.6		67.9	9.2	4.6		—	10.10	1.81

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては端野中央統、端野東統、端野北統があるが端野中央統とは母材が異り、端野東、端野北統は畑地のため夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（赤色珪岩、砂岩の風化堆積物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

常呂川の流域に分布する低平地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

E 農業上の留意事項

排水中庸もしくは良好で、透水性も中庸な水田土壌で、当地域としては比較的収量が高く、問題の少ない土壌である。有機物含量が少ないので堆厩肥の施用、素わなの施用等が望ましい。

F 分布 端野町三区の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立農業試験場）

年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
端 野 南—端 野 南	Itp

第1層は厚さ17cm内外で腐植含量4~5%、土性はCLが主である。色は7.5Yで彩度1、明度3。細粒状構造で発達程度は弱度である。未風化小円礫を含み、膜状の酸化沈積物を含む。ち密度8で頗る疎、pH(H₂O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はSCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度18で疎、pH(H₂O)6.1前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はSである。色は10YRで彩度2、明度5。単粒構造である。斑状の酸化沈積物を含む、ち密度15で疎、下層との境界は明瞭である。

第4層は地表下概ね50cm以下で、未風化小円礫からなる。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町字北登 試坑16仁18B

第1層	0~17cm	腐植を含む灰色(7.5Y3/1)のCL、発達弱度の細粒状構造、膜状の酸化沈積物を含む、ち密度8で頗る疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第2層	17~35cm	腐植を欠く褐色(7.5YR4/4)のSCL、発達弱度の粒状構造、糸根、斑状の灰色斑を含む、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第3層	35~50cm	腐植を欠く灰褐(10YR5/2)のS、単粒構造、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度15で疎、境界明瞭。
第4層	50~	未風化小円礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0~17		16.2	37.9	22.6	23.3	CL	2.83	0.30	9	4.9	5.5	4.1
2	17~35	0.5	20.2	48.0	11.9	20.1	SCL	1.00	0.14	7	1.7	6.1	4.9

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30℃NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	P ₂ O ₅		
1	3.44	32.9	12.8	3.0	0.3	38.9	17.3	13.5	17.3	7.2	1,180	1.41
2	0.30	31.8	20.1	1.9	0.5	63.2	4.6	1.0	4.6	1.6	970	1.75

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては豊美西統、仁頃河段統、仁頃河岸統が存在するが母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(赤色珪岩、砂岩の風化堆積物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形

仁頃川流域の低平地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ、しばしば冷湿害を受ける。

Ⅱ 農業上の留意事項

一部礫層が浅く透水過良になるところは粘質土壌の客入が必要である。また一部は地形の関係で排水不良を呈するところがある、かゝるところは暗渠排水、明渠排水の完備が必要である。

Ⅲ 分布 端野町仁頃の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 4 2 年 3 月 3 1 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
北 登 中 央 - 北 登 中 央	II dpl

② 土壌区別説明

北 登 中 央 - 北 登 中 央

示 性 分 級 式 (水 田)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 土 層 厚 深	有 効 土 層 深	表 土 層 厚 深	耕 作 土 層 厚 深	灌 漑 土 層 厚 深	酸 性 土 層 厚 深	遊 離 酸 土 層 厚 深	土 質 土 層 厚 深	自 然 土 層 厚 深	自 然 土 層 厚 深	養 分 土 層 厚 深	置 換 土 層 厚 深	有 毒 土 層 厚 深	微 酸 土 層 厚 深	障 害 土 層 厚 深	災 害 土 層 厚 深	地 域 土 層 厚 深
Ⅱ	I	II	III	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II
Ⅲ	II	III	I	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II	II

簡略分級式 II dpl

③ III d II tpw

A 土壌区の特徴

この土壌区は北登中央統に属する。表土の厚さは17cm内外でやや深く、有効土層は50cm内外で中庸である。表土の土性の中粒質で礫層浅く、湛水透水性はやや大である。グライ層なく排水中庸な水田土壌である。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は良好であり、自然肥沃度はやや良好である。作土の養分含量は中庸で、磷酸、加里がやや少ない傾向がある。特殊の障害性、災害性は存在しないが礫層

が浅い。

B 植生及び利用状況

主として水稻が栽培され、一部は畑作が行なわれている。

C 地力保全上の問題点

礫層がやや浅いが表土は比較的良好な土壌である。腐植含量が低いので堆積厩肥、素わら等の施用、
磷酸、加里に重点を置いた施肥が必要であろう。

D 分布 端野町仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

豊 美 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16cm内外で腐植含量4~5%、土性はLiCが主である。色は7.5Yで彩度1、明度4。糸根状の酸化沈積物を含む、ち密度1.2で疎である。pH(H₂O)5.2前後。下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ25cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度6。粒状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富み、斑状の酸化沈積物を含む。pH(H₂O)6.2前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ25cm内外で腐植を欠き、土性はHCが主である。色は5YRで彩度3、明度6。角柱状構造、一部発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む。斑状の酸化沈積物に富む、ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.6前後、下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。色は7.5Yで彩度1、明度6。発達弱度の角柱状構造を呈し、細小孔を含む、斑状の酸化沈積物に富む。ち密度2.2で中である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字仁頃 試坑₁₆仁22B

第1層	0~16cm	腐植を含む灰褐(7.5Y 4/1)のLiC、発達弱度の細粒状構造、糸根状の酸化物を含む、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第2層	16~45cm	腐植あり、灰褐(10YR 6/2)のCL、発達弱度の粒状構造、細小孔に富む、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第3層	45~70cm	腐植を欠く褐色(5YR 6/3)角柱状構造、一部発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿、境界波状明瞭
第4層	70~	腐植を欠く灰色(7.5Y 6/1)のC、柱状構造、細孔を含む、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度2.2で中、調査時の湿り潤。湧水70cm。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0~16	2.6	12.5	32.4	26.9	28.2	LiC	2.78	0.30	9	4.8	5.2	4.2
2	16~45	1.9	19.6	35.6	21.5	23.3	CL	1.75	0.18	10	3.0	6.2	4.7
3	45~70	3.3	4.4	16.7	32.1	46.8	HC	1.15	0.14	8	2.0	5.6	4.4

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30℃NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	P ₂ O ₅		
1	6.25	35.9	10.3	8.8	0.2	28.6	13.2	7.6	13.2	5.6	1.070	1.77
2	0.30	29.3	14.4	2.6	0.2	49.1	—	2.0	—	2.8	1.520	2.22
3	1.25	45.5	16.8	6.9	0.3	36.9	—	—	—	2.9	1.360	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては北登中央統、仁頃河段統、仁頃河岸統等があるが、北登中央統とは母材が異り、仁頃河岸統、仁頃河段統とは母材堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（赤色珪岩の風化堆積物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

小河川の流域に分布する低平地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ、しばしば冷湿害を受ける。

D 植生及び利用状況

主に水稻が作付けられている。

E 農業上の留意事項

中間型水田土壌に属し、当地域としては比較的良好な水田土壌である。腐植含量が低いので堆厩肥、素わら等有機物の施用が望ましい。また、土壌は磷酸、加里がやや少ないので、冷害対策と併せて磷酸、加里を増施して初期生育を促進し、生育遅延を抑制することが必要である。

F 分布 端野町字仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日

昭和42年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊 美 中 央—豊 美 中 央	III p II n

② 土壌区別説明

豊美中央—豊美中央

示 性 分 級 式(水 田)

土	表	有	表	耕	漚	酸	土	自	養	障	災								
壤	効	土	土	土	土	土	地	透	保	固	置	有	微	酸	有	物	増		
生	土	土	土	土	土	土	地	然	層	分	換	"	"	"	"	害	理	冠	
産	土	土	土	土	土	土	地	地	の	性	態	量	量	量	量	物	的	水	
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	含	難	土	着	水	土	元	化	乾	沃	状	豊	含	害	有	害	險	
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p		l	r	w	f	n		i	a						
種	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	1	1	1	3	3	3	2	1	1	2	1	1	1	1	-	-	-	-	-
畑	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	2	2	2	3	3	3	2												
簡略分級式 Ⅲ p II n																			
Ⅲ p w II t n																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は豊美中央統に属する。表土の厚さは1.6cm内外でやや深く、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質で湛水透水性は小である。易分解性有機物含量低く、グライ化度中庸で土壌還元化による根系障害は殆んどない。

保肥力大、磷酸固定力中庸、土層の塩基状態も中庸で、自然肥沃度は中庸もしくはやや高い。作土は磷酸、加里がやや少ない。障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は水稻が単作されているが、一部は畑作が行なわれている。

C 地力保全上の問題点

比較的よい土壌である。腐植含量が低いので堆厩肥、素わら等の有機物の施用、磷酸、加里の増施により初期生育の促進に努めることが必要である。

D 分 布

端野町字仁頃の一部
 記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）
 年 月 日 昭和42年3月31日

耕 牛 内 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量6~7%、土性はLiCが主である。色は5Yで彩度1、明度4。細粒状構造で発達程度は弱度である。糸根状の酸化沈積物を含み、ち密度10で頗る疎、pH(H₂O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量6~7%、土性はLiCが主である。色は5Yで彩度1、明度4。発達弱度の柱状構造、糸根状、膜状の酸化沈積物を含む。ち密度14で疎、pH(H₂O)5.2前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はHCが主である。色は10YRで彩度1、明度5。半風化小中半角礫を含む場合がある。発達弱度の角柱状構造、中孔を含む。斑状、管状の酸化沈積物に頗る富む。ち密度15で疎、pH(H₂O)5.1前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ15cm内外で半風化細小中円礫からなる。

第5層は地表下概ね60~70cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。色は10Yで彩度1、明度5。均質連結状構造を呈し、斑状の酸化沈積物を含む。ち密度10で頗る疎、グライを呈する。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町字緋牛内 試坑No北69

第1層	0~15cm	腐植に富む灰褐(5Y4/1)のLiC、発達弱度の細粒状構造、糸根状酸化沈積物を含む。ち密度10で頗る疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り湿、境界直線明瞭。
第2層	15~25cm	腐植に富む灰褐(5Y4/1)のLiC、発達弱度の粒状構造と角柱構造、糸根状、膜状酸化沈積物を含む。ち密度14で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
第3層	25~50cm	腐植を欠く灰褐(10YR5/1)のHC、発達弱度の角柱状構造、細小孔を含む。半風化小円礫を含み、斑状、管状の酸化沈積物に頗る富む。ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.1、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第4層	50~65cm	半風化細小中円礫層
第5層	65~	腐植を欠く灰色(10Y5/1)のC、均質連結状、斑状の酸化沈積物を含む。ち密度10で疎、グライを呈す、調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0~15	2.8	6.6	34.1	31.0	28.3	LiC	4.07	0.41	10	7.1	5.5	4.4
2	15~25	4.7	6.2	26.2	35.7	31.9	LiC	4.40	0.43	10	7.5	5.2	4.2
3	25~50	5.1	2.6	14.5	35.8	47.1	LiC	—	—	—	—	5.1	3.8

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	P ₂ O ₅		
1	8.80	4.16	10.3	0.3	0.4	24.7	11.7	10.9	11.7	4.5	2.430	1.34
2	13.80	4.42	15.3	3.0	0.4	34.5	9.3	3.8	9.3	8.0	2.390	1.28
3	9.40	4.29	15.4	3.0	0.4	35.8	—	—	—	0.8	1.220	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する類似する統としては緋牛内統、開拓統、豊美東統等があるが緋牛内統、開拓統とは母材、堆積様式が異り、豊美東統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（泥岩、頁岩風化堆積物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

小河川の流域に分布する低平地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

主として水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

小河川の流域に分布するため土層はやや乱雑で一定しない場合があり、砂礫層の浅いところがあり、また台地からの伏流水の影響を受けて過湿なところが存在するから部分的に客土、排水が必要である。

区画拡大の場合は切土部分に対する有機物施用、磷酸、窒素の増肥、窒素の追肥等が問題となる。

F 分布 端野町字緋牛内

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
緋 牛 内 東 - 緋 牛 内 東	IIplfn

② 土壤區別説明

緋牛内東一緋牛内東

示 性 分 級 式 (水 田)

	土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 厚 深 さ	有 効 土 層 厚 深 さ	表 耕 土 層 厚 深 さ	海 作 土 層 厚 深 さ	酸 作 土 層 厚 深 さ	易 遊 離 性 化 機 物 密 度	土 質 性 質	自 然 層 分 換 性 態	養 置 有 効 性 態	障 害 性 質	災 害 性 質																								
	tdgp	l	r	w	f	n	i	a																												
(稲)	II	III	III	3	3	2	II	1	2	I	2	1	1	-	-	-	II	1	3	2	II	1	2	1	2	1	-	1	2	I	1	1	I	1	1	
								団 単 地 独																												
(畑)	III	II	II	III	3	3	2	-	-	-	-	-	III	III	3	3	3	III	1	3	3	II	1	2	1	2	1	-	1	2	I	1	1	I	1	1
	簡略分級式												IIplfn																							

(畑) IIIpwfIItdn

A 土壤区の特徴

この土壤区は緋牛内東統に属する。表土の厚さは25cm内外で深く、有効土層は50cm内外で中庸である。作土の土性は細粒質で湛水透水性は小である。易分解性有機物がやや多いが、グライ化度はやや弱く水稻の根系障害を受けることは少ない。

保肥力大、固定力強大で、土層の塩基状態やや不良であり、自然肥沃度はやや低い。作土の養分含量はやや低い、障害性、災害性は存在しない。

泥岩風化物を母材とする灰色グライ様を呈する水田土壤である。一部は礫層の浅いところが局所的に存在するが、土性は細く粘土質のものが多い。

B 植生及び利用状況

大部分水稻が単作されている。

C 地力保全上の問題点

磷酸、加里、苦土が少ないようであるから、冷害対策も含めて磷酸を増施して初期生育を促進せしめるとともに、加里、苦土の施肥量を増して登熟を高めることが必要である。

D 分布

端野町字緋牛内の一部
記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和42年3月31日

端 野 中 央 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量7~8%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度2。発達弱度の粒状構造を呈し、膜状酸化沈積物を含む、ち密度1.2で疎、pH(H₂O)5.7前後、下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量6~7%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度1。発達弱度の角柱状構造を呈し、膜状の酸化沈積物を含む。細孔を含む、ち密度1.4~1.5で疎、pH(H₂O)5.9前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植含量2%以下、土性はSLが主である。色は2.5Yで彩度2、明度6。単粒構造で、斑状、管状の酸化沈積物を含む。ち密度1.8~2.2で中である。pH(H₂O)6.2前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ10cm内外で腐植含量5%内外、土性はCが主である。色はNで明度4。均質連結状構造を呈し、ち密度1.8で疎、下層との境界は明瞭である。

第5層は地表下概ね80cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色は2.5Yで彩度2、明度7。単粒構造、ち密度1.7で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字三区 試坑北38

第1層	0~20cm	腐植に富む黒色(10YR2/1)のLiC、発達弱度の粒状構造、膜状の酸化沈積物を含む、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第2層	20~37cm	腐植に富む(10YR1/1)のLiC、発達弱度の角柱状構造、膜状酸化沈積物を含む、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第3層	37~77cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y6/2)のSL、単粒構造、斑状、管状酸化沈積物を含む、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第4層	77~82cm	腐植に富む灰色(N4/0)のC、均質連結状構造、ち密度1.8で疎、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第5層	82~	腐植を欠く灰褐(2.5Y7/2)のS、単粒構造、斑状、管状の酸化沈積物を含む。ち密度1.7で疎、調査時の湿り潤。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						H ₂ O	KCl
1	0~20	4.9	8.8	32.5	33.6	25.1	LiC	4.89	0.44	11	8.4	5.7	5.1
2	20~37	4.9	8.3	26.8	30.2	34.7	LiC	4.10	0.36	11	7.1	5.9	5.2
3	37~77	1.8	18.1	54.3	15.5	12.7	SL	—	—	—	—	6.2	5.0

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	30℃NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄%
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	P ₂ O ₅		
1	1.40	43.7	17.4	0.5	0.01	39.8	15.3	5.9	15.3	12.2	1.320	1.22
2	0.50	48.8	22.4	1.9	0.4	45.9	17.5	7.4	17.5	8.0	1.195	1.38
3	0.50	19.2	7.7	0.6	0.4	40.1	—	—	—	2.0	5.31	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては開拓統、端野中央統、端野西統等があるが、開拓統、端野西統とは堆積様式が異り、端野中央統とは乾湿が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

常呂川流域の低平地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温にみまわれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

主として水稻が作付けられている。

E 農業上の留意事項

腐植含量多いが、土壌の生産力は余り高くない。堆厩肥の施用、磷酸の増施による初期生育の促進加里、苦土の増施によつて登熟を高めること等が必要である。

F 分布 端野町字二区、三区の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
端野中央西 — 端野中央西	II p r f n

② 土壌区別説明

端野中央西—端野中央西

示 性 分 級 式 (水 田)

	土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 層 厚 深 易	有 効 土 質 の 粘 土 含 量	耕 作 土 質 土 質 粘 土 含 量	灌 漑 風 乾 透 最 高 密 度	酸 土 作 業 土 質 水 下 50cm 最 高 密 度	遊 離 酸 土 質 含 量	土 質 含 量	自 然 肥 沃 性 度	養 分 固 定 力	置 換 土 質 含 量	有 機 質 含 量	障 害 性 度	災 害 性 度
	tdgplr (稲) II	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322	IIIII321I12H322
	(畑) III	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321	IIIII321

簡略分級式 Iprfn

(畑) IIIw IItpfn

A 土壌区の特徴

この土壌区は端野中央西統に属する。表土の厚さは20cm内外で深く、有効層は1m以上で深い。表土の土性細粒質でやや堅密なため灌水透水性は小である。易分解性有機物含量多いがグライ化はそれほど強くない、水稻の根系障害は強くうけない。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は中庸で、自然肥沃度は中庸である。作土は加里、苦土が少ない。障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は水稻が単作されている。

C 地力保全上の問題点

冷害対策も含めて初期生育を促進せしめるための磷酸増施、登熟を高めるために苦土、加里の増施が必要である。また本土壌では生育中期の窒素発現による出来遅れが予想されるので窒素質肥料の施用は表層に重点を置くなど特に注意が必要である。

D 分布

端野町字二区、三区の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

端 野 中 央 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量12~15%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度2。粒状構造で発達程度は中度のものが多い。膜状酸化沈積物を含む、ち密度10以下で頗る疎、pH(H₂O)5.2前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量6%内外、土性はHCが主である。色は5Yで彩度1、明度6、ヨシ泥炭を含む。均質連結状構造を呈し、ち密度10以下で疎、pH(H₂O)5.3前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ10cm内外でヨシを多く含む亜泥炭、土性はCが主である。色は10YRで彩度1、明度3。ち密度10以下で頗る疎。

第4層は地表下概ね45cm以下で、ヨシ泥炭を多量に含む亜泥炭。色は2.5GYで彩度1、明度5のものが多い。ち密度10以下で疎である。

代表的断明形態

(所在地) 常呂郡端野町字二区 試坑No.L90

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む黒色(10YR 2/1)のLiC、発達弱度の粒状構造、膜状酸化沈積物を含む、ち密度10以下で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	15~19cm	腐植を欠く黄褐(10YR 7/4)のSL、(旭岳、雌阿寒岳火山灰層)。
第3層	19~35cm	腐植に富む灰褐(5Y 6/1)のHC、ヨシ泥炭を含む、ち密度10以下で疎、pH(H ₂ O)5.3前後、調査時の湿り湿。境界平坦明瞭。
第4層	35~45cm	ヨシ泥炭を多く含む亜泥炭層、灰褐(10YR 3/1)。
第5層	45~	ヨシ泥炭を多量に含む灰色(2.5GY 5/1)の亜泥炭層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0~15		7.0	26.9	27.7	38.4	LiC	8.07	0.66	12	13.9	5.2	4.4
2	19~35	3.8	0.2	25.1	29.2	45.5	HC	—	—	—	—	5.3	4.2

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30℃NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	P ₂ O ₅		
1	1.88	5.26	2.19	3.4	0.1	4.16	18.7	5.3	18.7	10.4	2.960	1.77
2	2.19	6.25	2.97	8.2	0.3	4.75	2.88	5.4	2.88	2.9	2.690	2.22

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては端野中央統、端野西統、端野中央西統等があるが、何れも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/集積(ヨシ)、非固結水成岩。

A-4 堆積様式 風積/集積、水積

B 地形

山地沿いに小規模に分布する平地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ、しばしば冷湿害を受ける。
年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

主として水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

山地からの伏流水の影響が強く過湿となるところは更に排水の完備が必要であり、泥炭質の強いところは客土の必要があろう。

F 分布 端野町二区の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
端 野 中 央 北—端 野 中 央 北	II t l r f n

② 土壌区別説明

端野中央北—端野中央北

示 性 分 級 式 (水 田)

土 壤	表 土	表 土	表 土	灌 漑	酸 性	易 遊	土 質	自 然	透 保	湿 潤	保 固	土 質	置 換	有 機	微 酸	障 害	災 害	地 理	
効 土	土 質	土 質	土 質	下 50cm	性 化	イ	地	然	水 水	潤 肥	肥 定	塩 基	石 灰	苦 土	加 磷	窒 素	珪 酸	物 質	增 冠
産 力	土 質	土 質	土 質	の 風	の 乾 透	の 還 有	の 機 鉄	の 水 水	潤 肥	肥 定	塩 基	石 灰	苦 土	加 磷	窒 素	珪 酸	の 障 害	的 害	の 冠 水
可 能	厚 含	難 土	着 水	の 高 密	の 元 含	物 化	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃
性 等	深	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性
級	さ 量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t d g p	l	r	w	f	n	i	a											
(稲) II	II I I I 3 1 1	II 1 3	II 3 1 2	- - -	II 1 3 2	II 1 1 3 1 1	- 2 2	I 1 1 I 1 1											
(畑) III	II I I I 3 1 1	- - - - -	- - - - -	III III 1 3 3	II 1 3 2	II 1 1 3 1 1	- 2 2	I 1 1 I 1 1											
簡略分級式		II t l r f n																	

(畑) III w II t f n

A 土壌区の特徴

この土壌区は端野中央北統に属する。作土の厚さは15cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は細粒質で湛水透水性は中庸である。

易分解性有機物やや多く、土壌の還元化はやや進むが地温があまり高くないため水稻の根系障害は強くない。

保肥力大、固定力強大で、土層の塩基状態は中庸であり、自然肥沃度は中庸かもしくはやや低い。土壌は磷酸、加里含量が低い傾向がある。障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

水稻が単作されている。

C 地力保全上の問題点

完全な暗渠排水、明渠排水の実施が必要である。冷害対策も含めて磷酸、加里、苦土を増施し、窒素質肥料の施用は特に注意して出来遅れを抑えることが必要である。

D 分布

端野町字2区の一部
記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和42年3月31日

開 拓 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量10~12%、土性はSLが主である。色は10YRで彩度1、明度2。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10~15で疎、pH(H₂O)4.7前後、下層との境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量5~6%、土性はSLが主である。色は10YRで彩度4、明度3のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。ち密度15~17で疎、pH(H₂O)5.3前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20~25cmで腐植含量2~3%、土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度8、明度5のものが多い。塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に頗る富む。ち密度15~17で疎、pH(H₂O)5.9前後、下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はSが主である。色は7.5YRで彩度4、明度8、単粒構造で細小中孔に富む、ち密度15前後で疎、pH(H₂O)6.6前後、下層との境界は漸変である。

第5層は地表下概ね90cm以下で腐植を欠き、土性はSである。単粒構造で細小中孔に頗る富む。ち密度15内外で疎。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町字 試坑№端11

第1層	0~20cm	腐植に頗る富む黒色(10YR2/1)のSL、発達弱度の粒状構造、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)4.7、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~35cm	腐植に富む暗褐(10YR3/4)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界漸変。

第3層	35~60cm	腐植を含む明褐(7.5YR5/8)のSL、発達弱度の塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第4層	60~90cm	腐植を欠く淡橙(7.5YR8/4)のS、単粒構造、細小中孔に頗る富む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)6.6、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第5層	90~	腐植を欠く明橙褐(7.5YR6/4)のS、単粒構造、細小中孔に頗る富む、ち密度1.5で疎、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	4.9					6.44	0.38	17	11.1	
2	20~35	6.8					3.65	0.27	14	6.3	
3	35~60	5.2					1.39	0.10	14	2.4	

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.7	4.3	5.0	28.4	10.2	1.7		35.9	848	
2	5.3	4.3	5.7	21.3	3.7	0.6		17.3	1,618	
3	5.9	5.1	0.7	10.3	1.7	0.7		16.5	1,271	

A-2 他の土壌統の関係

本統に隣接または類似する統としては端野中央西統、仁頃河岸統、北登中央統、豊美東沢統等があるが、端野中央統、仁頃河岸統とは堆積様式が異り、北登中央統、豊美東沢統とは母材、堆積様式とも異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積

B 地形

台地上の波状性緩傾斜~傾斜地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷害を被る。年平均気温5.2℃、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

耕地には麦類、豆類、馬鈴薯、ビート、その他の作物が栽培されているが他は山林原野になつてゐる。

E 農業上の留意事項

土壌の耐侵蝕性が乏しいから傾斜地で風水蝕の防止対策が最重要事項である。頂部では侵蝕によつて地力が減耗しているから有機物の施用、施肥量の増量が必要であろう。

一般に腐植を多く含んでいるが、瘠薄化し易い土壌なので牧草栽培、有機質の施用によつて常に地力の維持増進に努めることが肝要であり、このことが冷湿年における被害軽減に結びつくと考えられる。

F 分布 端野町字1区、2区、仁頃の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和42年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区の一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
開 拓一開 拓	ⅢeⅡtfn s

② 土壌別説明

開 拓一開 拓

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 土 の 層 磔 の 厚 深	表 土 土 の 風 乾 粘 土 難 着 硬	耕 耘 土 の 風 乾 着 硬	自 然 的 潤 肥 沃 性 度 度	養 分 層 換 の 性 態 量 基 灰 土 里 酸 要 状 豐 含	障 害 質 的 害 の 障 害 險	微 酸 物 理 冠 水 べ り の 傾 危 傾 方	災 害 冠 水 べ り の 傾 危 傾 方	地 冠 水 べ り の 傾 危 傾 方	傾 斜 然 斜 傾 方	侵 入 自 然 為 水 風 蝕 蝕	耐 侵 耐 蝕 蝕
	t d g p	w	f	n		i a s e						
Ⅲ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ	Ⅱ Ⅰ Ⅱ Ⅰ	Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅲ	Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅱ Ⅱ		Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅱ - - Ⅲ Ⅱ Ⅲ Ⅲ						

簡略分級式 ⅢeⅡtfn s

A 土壌区の特徴

この土壌区は開拓統に属する。表土の厚さは15～20cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粗粒質で粘着性弱く耕起砕土は容易である。保水性中庸、透水性良好のため過湿、過干のおそれは少ないが、土壌軽しようなため春季強風乾期に表土が飛散する場合がある。

保肥力大、磷酸固定力中庸、土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。作土の養分含量は比較的あるが、下層は瘠薄である。特殊の障害性は存在しない。地形は緩傾斜～傾斜を有し、土壌の耐侵蝕性が乏しいので侵蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

耕地には麦類、荳類、馬鈴薯、ビート、牧草等が栽培されている。他は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

緑作帯、等高線栽培、牧草栽培等による侵蝕止対策が必要である。瘠薄化し易い土壌であるから牧草栽培、有機物施用により常に地力の維持増進に努めることが肝要である。施肥面では流亡損失し易い加里、苦土に重点をおくことが望ましい。

D 分布

端野町字1区、2区、仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和42年3月31日

川 向 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ23cm内外で腐植含量8~9%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度16前後で疎、pH(H₂O)5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%前後、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度3、明度2。粒状構造で発達程度は中度である。細小孔を含む、ち密度17で疎、pH(H₂O)5.7前後、下層との境界は波状判然である。

第3層は厚さ10cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度6、明度4~5。細塊状構造で発達程度は中度である。細小孔に富む、ち密度20で中である。pH(H₂O)5.9前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ10cm前後で腐植を欠き、土性はSである。色は7.5YRで彩度8、明度6。塊状構造で発達程度は弱度である。黒色岩片、軽石粒が混入、ち密度20前後で中である。下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は地表下概ね60cm以下で腐植を欠き、土性はSが主である。色は10YRで彩度4、明度8。単粒構造、中大孔に富む、ち密度19前後で疎~中である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字川向 試坑№美16B

第1層	0~23cm	腐植に富む黒色(10YR 2/1)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	23~38cm	腐植を含む黒褐(10YR 2/3)のLiC、発達中~強度の粒状構造、細小孔を含む、ち密度17で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、境界波状判然。
第3層	38~48cm	腐植を欠く明褐(7.5YR 4.5/6)のLiC、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第4層	48~60cm	腐植を欠く明褐(7.5YR 6/8)のS、発達弱度の塊状構造、ち密度20で中、10cm置きに1.5cmの褐色縞層が分布、黒色岩片、軽石粒が混入、調査時の湿り湿、境界直線明瞭。
第5層	60~	腐植を欠く淡黄褐(10YR 8/4)のS、単粒構造、ち密度19で疎、10cm置きに1.5cmの褐色縞層が分布、黒色岩片、軽石粒を含む、調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~23	3.3	16.9	39.4	26.0	17.7	CL	5.33	4.32	1.2	9.2
2	23~38	3.1	14.1	24.4	30.4	31.1	LiC	1.48	0.17	9	2.4
3	38~48	2.7	19.0	26.6	25.1	29.3	LiC	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.7	0.60	30.9	16.4	2.6	0.2	53.1	1,250	14.2
2	5.7	4.5	0.60	26.8	13.9	2.2	0.4	51.9	1,280	1.2
3	5.9	4.5	0.60	—	—	—	—	—	1,200	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては川向南東統、川向沢統があるが、川向南東統とは母材、堆積様式が異なり、川向沢統とは堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（凝灰質、軽石流堆積物）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

波状を呈する台地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、豆類、ビート、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

軽石風化物を母材とするため軽しようで耐侵蝕性に乏しく傾斜地においては水蝕のおそれが多いから防止対策が必要である。また瘠薄化し易い土壌と考えられるから塩基の補給等が必要である。

F 分布 端野町字川向の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
川 向 東—川 向 東	III e II t f s

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量8～9%、土性はCLが主である。色は7.5 YRで彩度2、明度2のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.3で疎である。pH(H₂O) 5.9、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量4～5%、土性はCLが主である。色は7.5 YRで彩度4、明度4。粒状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富み、ち密度1.6で疎である。pH(H₂O) 6.1前後、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は7.5 YRで彩度8、明度6が主である。細小孔に富む、細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.9で中である。下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はLが主である。色は7.5 YRで彩度6、明度4～5。均質連結状で、孔隙を有さない。ち密度2.7で密であり難透水層を形成している。下層との境界は漸変である。

第5層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はLが主である。色は7.5 YRで彩度6、明度4～5。均質連結状構造で孔隙なく、ち密度3.0～3.2で甚だ密であり、不透水層を形成している。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町 試坑北25

第1層	0～22cm	腐植に富む黒褐(7.5 YR 2/2)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	22～35cm	腐植を含む褐色(7.5 YR 4/4)のCL、発達弱度の細粒状構造、細小孔に富む、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	35～55cm	腐植を欠く明橙褐(7.5 Y 6/8)のL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.9で中、調査時の湿り湿、境界漸変。
第4層	55～70cm	腐植を欠く明褐(7.5 YR 4.5/6)のL、均質連結状構造、孔隙なし、ち密度2.7で密、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第5層	70～	腐植を欠く明褐(7.5 YR 5/6)のL、均質連結状、孔隙なし、ち密度3.2で甚密な不透水層、調査時の湿り乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～22	5.1	11.6	38.4	34.2	15.8	CL	5.31	0.44	1.2	9.1
2	22～35	4.5	13.2	59.7	20.5	6.6	SL	2.64	0.24	1.1	4.5

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	5.0	0.30	29.5	16.6	1.43	0.8	56.3	1,870	8.9
2	6.1	5.2	0.30	22.7	9.4	7.8	0.4	41.4	2,440	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては開拓統、川向西統、協和統、川向沢統等があるが、開拓統とは土性が異り、川向西統、協和統とは下部の盤層の有無により、また川向沢統とは母材、堆積様式の差異によりそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 緩波状を呈する台地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、荳類、ビート、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層は堅密な不透水層になつているため、融雪期、多雨季には停滞水を生じて一時的湿性を呈し、また乾燥季には一時的過干を来す場合があるため、土壌水分の調節は難しい問題であるが、一応軽度の暗渠排水が望ましいところである。傾斜を有し土壌は耐侵蝕性に乏しいので緑作帯、牧草栽培、等高線栽培等水蝕防止対策が必要である。

F 分布 端野町字緋牛内、川向、協和の大部分。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
緋 牛 内-緋 牛 内	II t d w f s e

② 土壌区別説明

緋 牛 内 統

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
壤	表	効	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐												
生	効	土	耘	土	地	然	層	換	"	"	効	害	理	冠	す	水	べ	り	然	斜	為	水	風												
産	土	土	土	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の												
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の												
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の												
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の												
性	厚	含	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"												
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性												
級	さ	量	易	湿	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度												
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
	II	II	I	I	2	1	1	II	2	3	2	II	1	3	2	I	1	1	1	1	2	2	I	1	1	I	1	1	II	2	-	II	2	3	2
	簡略分級式 II t d w f s e																																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は緋牛内統に属する。表土の厚さは20～25cmで中庸、有効土層は70cm内外で中庸である。表土は中粒質で粘性弱く耕起、砕土は容易である。保水性中庸かやや強く、下層土が透水不良のため一時的に停滞水を生じて一時的に湿性を帯びるおそれがあり、また乾燥期には一時に過干になる場合がある。

保肥力大、磷酸固定力大で、土層の塩基状態は中庸で自然肥沃度は中庸である。作土は施肥管理により養肥分含量高いが、下層土は磷酸に欠乏し、瘠薄である。酸性は呈しない。特殊の障害性は存在しない。地形は波状緩傾斜を呈し、土の耐侵蝕性が乏しいため水蝕発生のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、荳類、ビート、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

一時的過干と湿性が起るおそれのある土壌で、水分調節の面で困難性を感じるが、差し当つて一時湿性を回避するため軽度の暗渠排水が揚げられる。

次いで牧草栽培、有機物施用による地力の増進と土壌構造の促進が目下必要であろう。大型機械による一時深耕の場合は特に磷酸質肥料の増施が必要であり、他の施肥も増量すべきであろう。

D 分布

端野町字緋牛内、川向、協和の大部分
 記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
 年 月 日 昭和42年3月31日

川 向 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量8～9%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度2。粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度13で疎である。pH(H₂O)5.5前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量5%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度6、明度4のものが多い。粒状構造で発達程度は弱度であり、細小孔に富む。ち密度16で疎、pH(H₂O)5.3前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は7.5～10YRで彩度8、明度5～6。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に頗る富む。ち密度18前後で疎、pH(H₂O)5.4前後、下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ20～25cmで腐植を欠き、土性はLが主である。色は7.5～10YRで彩度8、明度5。塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に頗る富み、ち密度20で中である。下層へは漸変する。

第5層は地表下概ね80～90cm以下で、腐植を欠き、土性はSL～Sである。色は7.5～10YRで彩度6、明度5。均質連結状構造で孔隙を有しない。ち密度27で密、盤状を呈する。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町字 試坑№北6D

第1層	0～22cm	腐植に富む黒色(10YR 2/1)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度13で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、下層との境界は平坦明瞭である。
第2層	22～35cm	腐植に富む暗褐(10YR 3/4)のL、発達弱度の粒状構造、細小孔に富む、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、下層へは漸変する。
第3層	35～57cm	腐植あり明褐(7.5YR 5/8)のL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に頗る富む、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、下層へは漸変する。
第4層	57～80cm	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/8)のL、発達弱度の塊状構造、細小孔に頗る富む、ち密度20で中、調査時の湿り半乾、下層へは漸変する。
第5層	80～	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/6)のSL、均質連結状構造、ち密度27で密、調査時の湿り乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～22	4.2	10.5	43.1	28.3	18.1	CL	5.51	0.45	12	9.5
2	22～35	2.5	9.1	44.7	34.6	11.6	L	2.95	0.28	11	5.1
3	35～57	4.8	9.0	51.2	31.4	8.4	L	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	4.6	1.88	24.0	8.9	0.4	0.8	37.1	1.810	5.4
2	5.3	4.5	1.25	19.3	5.1	1.1	0.3	26.4	1.790	0.4
3	5.5	4.5	2.19	18.7	4.4	1.8	0.5	23.5	2.310	0.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては緋牛内統、協和統、端野北統等があるが、緋牛内統とは腐植含量、盤層の深さが異り、協和統とは盤層並び乾湿の差異によりまた端野北統とは母材、堆積様式の差異により本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

平坦～緩傾斜を有する台地の低位段丘

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、荳類、麦類、ビート、ハツカ、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

腐植含量は多いが、牧草栽培、有機質の施用により常に地力の培養に努めることが必要である。局的に台地からの滲透水の影響を受けるところは軽度の排水が必要であろう。

F 分布 端野町字川向、協和の一部で常呂川に面する低位段丘地。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）
年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌統一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
川 向 西一川 向 西	III f II d n e

② 土壌区別説明

川 向 西—川 向 西

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																										
壤	効	土	土	土	透	保	湿	保	固	土																										
生	効	土	土	土	然	層	分	換	"	"																										
産	土	土	土	土	の	の	性	態	量	効																										
力	土	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定																										
可	の	層	の	の	粘	土	塩	基	灰	土																										
能	の	の	の	の	乾	沃	状	豊	含	"																										
性	厚	含	難	土	着	硬	"	"	"	"																										
等	深	性	性	性	性	度	力	態	量	素																										
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	性																										
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s																										
	III	I	II	I	I	2	1	1	I	2	3	1	III	1	3	3	II	1	2	1	2	2	2	I	1	1	I	1	1	I	1	—	II	1	2	1
	簡略分級式 III f II d ne																																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は川向西統に属する。表土の厚さは30cm内外で深く、有効土層は1m内外で中庸である。表土は中粒質で粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。保水性大であるが透水性中庸もしくは良好で過湿、過干のおそれは少ない。しかし一部台地からの滲透水の影響を受けて湿性を呈するところがある。

保肥力大、磷酸固定力大で土層の塩基状態中庸もしくは不良であり、自然肥沃度はやや低い。作土の養分含量は概ね中庸に属するが下層土は不良であり、特に磷酸に欠乏している。特殊の障害性は存在しない。土壌の耐侵蝕性は乏しいが、水分供給が潤沢でかつ傾斜が緩かなため侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、荳類、麦類、ビート、ハツカ、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

腐植を多く含むが、軽石風化物を母材とする土壌のため地力は高くなく、瘠薄化され易いから牧草栽培、有機物施用により常に地力の培養に努めることが必要である。局所的に台地からの滲透水によつて湿性になるところがあるからかかる場所は排水の必要がある。

作土層は一般にやや深くなっているが、大型機械等による急激な深耕の場合には土壌改良資材として磷酸質肥料の投入が必要である。

D 分 布 端野町字協和、川向の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和42年3月31日

協 和 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外で腐植含量5~6%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度3。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度15で疎、pH(H₂O)5.0~6.0、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度5、明度6。半風化細小円礫を含む、細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度23で中である。下層との境界は波状判然である。

第3層は地表下概ね30cm以下で、腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YRで彩度4、明度6。均質連結状構造で孔隙なく、ち密度30以上で甚だ密である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字川向 試坑№北28

第1層	0~18cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/3)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	18~30cm	腐植あり明黄褐(10YR 6/5)のCL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度23で中、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾境界明瞭。
第3層	30~	腐植を欠く明黄褐(10YR 6/4)L、均質連結状構造、ち密度30以上で甚密、グライ立脈を有する。調査時の湿り乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~18	0.8	—	1.4	37.3	28.0	23.3	CL	3.30	0.25	13	5.7
2	18~30	2.2	5%内外	13.6	29.7	32.0	24.7	CL	0.55	—	4	1.0

層位	pH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.55	4.35	0.60	2.11	12.0	1.5	0.5	56.9	9.09	11.3
2	5.75	4.35	0.60	15.8	8.7	0.3	0.3	55.1	8.77	0.4

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に隣接または類似の統としては緋牛内統、川向中央統、川向沢統等があるが、緋牛内統とは腐植含量、盤層の深さが異り、川向中央統とは母材が、また川向沢統とは母材、堆積様式がそれぞれ異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰質、砂岩風化物)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

台地上の波状性緩傾斜地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、豆類、ビート、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

有効土層が浅く、停滞水を生じて過湿になるから暗渠排水、心土破砕等の土地改良が必要である。

F 分布 端野町字協和の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
協 和-協 和	III dw II t p f i s e

② 土壌区別説明

協 和-協 和

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 有 表 耕	土 透 保 湿	自 保 固 土	養 置 有 微 酸	障 有 物 增 地	災 冠 す	傾 自 傾 人	侵 耐 耐
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 耘 土 の 層 磔 の 厚 深 さ	土 土 の 風 乾 粘 土 着 硬 性 易	然 水 潤 肥 定 塩 基 灰 土 里 酸 要	層 分 換 性 態 量 石 苦 加 磷 状 豐 含	害 理 物 質 的 害 障 危 險 有 害	水 べ り の 危 險	斜 然 傾 方	風 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
	III II III I II 2 2 I III 3 2 3 II 1 2 2 I 1 1 1 1 2 2 II 1 2 I 1 1 II 2 - II 1 2 2							
	簡略分級式 III dw II t p f i s e							

A 土壌区の特徴

この土壌区は協和統に属する。表土の厚さは 18cm で中庸、有効土層は 30cm で浅い。表土の土性は中粒質で粘着性やや弱く耕起碎土は容易である。不透水層が浅く存在するため停滞水を生じて一時的過湿となる。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は中庸で、自然肥沃度は中位である。作土の養分含量は中庸であるが下層はやや瘠薄である。特殊の障性は存在しない。緩傾斜を有するが侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、豆類、ビート、馬鈴薯等が栽培されている。

D 地力保全上の問題点

不透水層が浅く停滞水を生じて過湿になるが、また乾燥期には一時的過干になる場合があり、土壌水分調節に困難性を伴うが差し当つて暗渠排水、心土破碎による一時的過湿の解消が必要である。

D 分布 端野町協和の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

豊 美 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4~5%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度2。粒状構造で発達程度は弱度である。未風化半角礫を含み、ち密度10前後で疎、pH(H₂O)5~6、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度4、明度5、未風化半角小礫を含み、斑状の酸化沈積物を含む、角柱状構造で発達程度は弱度である。pH(H₂O)5.0~6.0、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ10~15cmで腐植を欠き、土性はLである。色は7.5YRで彩度6、明度5、斑状の酸化沈積物を含み、グライ立脈を有する。均質連結状構造、ち密度27前後で密、下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね40cm以下で腐植を欠き、土性はLである。色は7.5YRで彩度6、明度5。均質連結状構造で盤層を形成している。斑状の酸化沈積物を含み、グライ立脈を有する。ち密度30前後で甚だ密。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町仁頃 試坑No仁25

第1層	0~20cm	腐植を含む黒褐(10YR2/3)のCL、発達弱度の粒状構造、未風化半角小礫を含み、ち密度10前後で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~30cm	腐植あり、黄褐(10YR5/4)のCL、発達弱度の柱状構造、未風化半角小礫を含み、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾~湿、境界漸変。
第3層	30~43cm	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)のL、斑状の酸化沈積物を含み、グライ脈を有す、ち密度27で密で盤層状である。調査時の湿り乾、境界漸変。
第4層	43~	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)のL、斑状の酸化沈積物を含み、グライ脈を有す。ち密度30で甚密、盤層を形成している。調査時の湿り乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	0.5	5%内外	16.8	35.2	28.1	19.9	CL	2.70	0.21	1.3	4.7
2	20~30	1.6	5%内外	22.2	29.6	26.5	21.7	CL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.4	1.25	18.7	9.5	2.0	0.2	5.08	7.67	8.4
2	5.7	4.3	1.56	14.6	8.1	1.5	0.2	5.55	7.25	1.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としては開拓統、豊美東沢統があるが、開拓統とは盤層の有無により、豊美東沢統とは母材、堆積様式の差異によりそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積(扇状堆積)

B 地形

台地上の波状傾斜地で山地の裾部。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まわれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、豆類、ビート、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

不透水層が浅く存在し停滯水を生じて排水不良を呈するから、暗渠排水、心土破碎等による停滯水の排除が必要である。土壌は有機物含量が少ないから有機物の施用、牧草栽培等により腐植の富化と地力の維持増進が必要である。

F 分布 端野町仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験所)
年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
豊 美 南-豊 美 南	IIIwIItdpfni se

② 土壌区別説明

豊美南—豊美南

示性分級式(畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
生	効土	土	然	層分	" "	効	害理冠す	斜	水風
産	土	土の	の風	の性	態量	物	水べ	然為	の蝕
力	土の	の乾	の水草潤肥定	塩の石苦加磷	害質	害	的	の	蝕
可	の層	のの	水水潤肥定	塩の石苦加磷	基灰土里酸要	の障	危	傾	蝕蝕
能	の	の粘	沃	状豊含	" "	有害	險	方	蝕蝕
性	厚	含難	土着の乾	沃	状豊含	" "	有害	險	蝕蝕
等	深	性性	性性度	力力態	量	" "	素度無性	度度	斜斜
級	ささ	量易	湿度	度否	否	否	性性	斜蝕	蝕蝕
	t d g p	w	f	n			i a s	e	
	Ⅲ Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ 2 2 1 Ⅲ 3 1 3 Ⅱ 2 2 2 Ⅱ 1 1 2 2 2 Ⅱ 1 2 Ⅰ 1 1 Ⅱ 2 — Ⅱ 2 2 2								
	簡略分級式 ⅢwⅡtdpfnise								

A 土壌区の特徴

この土壌区は豊美南統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は30~40cmで浅い。表土の土性は中粒質で粘着性中庸で耕起、砕土はやや困難である。不透水層が浅く存在するため停滞水を生じて排水不良を呈する。保肥力中、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態はやや良好で自然肥沃度は中位である。作土は加里含量やや低く、下層土は一般に養肥分が少ない。特殊の障生は存在しない。緩傾斜を有し、水蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、荳類、ビート、馬鈴薯等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水、心土破砕等により停滞水の排除が必要である。牧草栽培、有機物の施用により保水力を高め、地力の培養に努めることが肝要である。

D 分布 端野町仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

豊美西統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm内外で腐植含量4~5%、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度2、粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度1.9で中、pH(H₂O)5.7前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度5、半風化細小半角礫に富む、塊状構造で発達程度は甚だ弱である。細小孔を含む、ち密度25で密、pH(H₂O)5.4前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。半風化細小半角礫を含む。色は10YRで彩度2、明度7。角柱状構造を呈す。微弱な雲状の酸化沈積物の含む場合が多い。pH(H₂O)4.9前後、ち密度30前後で甚だ密、下層へは漸変する。

第4層は地表下概ね40cm以下で腐植を欠き、土性はHCが主である。色は10YRで彩度2、明度7、構造内は7.5YRで彩度8、明度5である。ち密度30内外を有する甚密な盤層で、大角柱状構造を呈す。pH(H₂O)4.8。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡常呂町字 試坑66仁10

第1層	0～13cm	腐植を含む黒褐(10YR2/3)のCL、発達程度の粒状構造、ち密度19で中、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	13～25cm	腐植あり黄褐灰(10YR5/2)のCL、半風化細小半角礫に富み、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む。pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第3層	25～40cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のLiC、半風化細小半角礫を含み、角柱状構造、微弱な雲状酸化沈積物を含む。pH(H ₂ O)4.9、ち密度31で甚だ密、調査時の湿り乾、境界漸変。
第4層	40～	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のHC、構造内の色は明橙褐(7.5YR5/8)を呈する。大角柱状構造、ち密度30で甚密。pH(H ₂ O)4.8。調査時の湿り乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～13	0.6	9.5	34.7	30.3	25.5	CL	2.56	0.23	11	4.4
2	13～25	0.6	8.8	36.4	31.9	22.9	CL	—	—	—	0.8
3	25～40	0.5	4.8	34.3	24.2	36.7	LiC	—	—	—	—
4	40～	2.5	1.6	33.2	13.5	51.7	HC	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.4	1.25	19.5	9.7	3.1	0.08	49.7	74.7	7.6
2	5.4	4.0	4.38	12.7	4.7	2.1	0.09	37.0	60.6	tr
3	4.9	3.8	6.88	15.8	7.3	3.7	0.16	46.2	62.6	tr
4	4.8	3.6	8.44	21.8	9.4	8.3	0.25	43.1	74.2	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し類似の統としては仁頃河岸統、開拓統、協和統が存在するが、仁頃河岸統、開拓統と

は母材、堆積様式が異り、協和統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩、固結水成岩（古生層、中生層砂岩）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

波状性傾斜を呈する台地

C 気候

気候一般に涼冷で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷湿害を被る。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分は畑地に利用された、麦類、荳類、ビート、馬鈴薯、牧草その他の作物が栽培されている。一部急傾斜地は山林原野または植林地になっている。

E 農業上の留意事項

堅密な不透水層が浅く出現するため停滞水を生じて一時的過湿になるから心土破砕、暗渠排水の実施が必要である。乾燥期には一時的過干になるおそれもあり、土壌水分調節に困難を伴う土壌である。牧草栽培、有機物施用によつて保水力の増大、地力増進に努めることが肝要であろう。

F 分布 端野町字仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊 美 西-豊 美 西	IIItdIIpwfise

② 土壌区別説明

豊 美 西-豊 美 西

示 性 分 級 式（畑）

<p>土 表 有 表 耕 土 自 養 障 災 傾 侵 壤 効 表 表 透 保 湿 保 固 土 置 有 微 酸 有 物 增 地 自 傾 人 侵 耐 耐 生 土 土 土 土 然 層 分 換 " " 効 害 理 冠 斜 産 土 土 土 土 地 的 性 態 量 物 水 べ 然 為 水 風 力 の の の 乾 の 水 水 潤 肥 肥 定 塩 の 石 苦 加 磷 害 質 害 の の 蝕 可 の 層 の の 粘 土 基 灰 土 里 酸 要 の 障 危 危 傾 傾 蝕 蝕 能 の 礫 粘 土 着 乾 沃 状 豊 含 " " " " 有 害 險 險 方 性 厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含 " " " " 有 害 險 險 方 等 深 含 性 級 さ さ 量 易 湿 度 否 性 性 斜 斜 斜 蝕</p>
<p>t d g p w f n i a s e</p>
<p>III III I II 2 2 2 II 3 22-3II 2 2 2 I 1 1 1 2 1 2 II 1 2 I 1 1 II 2 - - II 2 2 1</p>
<p>簡略分級式 IIItdIIpwfise</p>

A 土壌区の特徴

この土壌区は豊美西統に属する。表土は13cm内外で浅く、有効土層も40cm内外で浅い。表土の土性は中粒質で、保水性中庸であるが、乾くと土壌が固結し砕土がやや困難である。堅密な不透水層が浅く存在し停滞水を生じて一時的に過湿となり、また乾燥期には一時的に過干におちいるおそれがあり、土壌水分調節に困難性を伴う土壌である。

保肥力、磷酸固定力ともに中庸で、土層の塩基状態も中庸である。作土の有効態磷酸含量中庸で他の養分含量はやや高い。盤層が浅いため物理的障害を受ける。地形に傾斜を呈し水蝕発生のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

耕地は馬鈴薯、ビート、麦類、荳類、牧草等が栽培されている。一部山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

盤層が浅く一時的湿性を呈するおそれがあるから心土破碎を行ない、軽度の暗渠排水が必要である。傾斜地のため水蝕が発生するから緑作帯、等高線栽培、牧草作付等による防止対策が必要である。有機物を補いながら、磷酸、加里を増施することが望ましい。

D 分布 端野町字仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

川 向 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4~5%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.4で疎、pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%内外、土性はCLである。色は7.5YRで彩度4、明度4。未風化細小半角礫を含む、細塊状構造で発達程度は中度である。細小孔を含み、ち密度2.0で中である。pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20~25cmで腐植を欠き、土性はCLが主である。未風化細小半角礫を含み、色は7.5YRで彩度6、明度5である。塊状構造で発達程度は強度である。細小孔に富む、ち密度2.3で中である。pH(H₂O)5.9前後、下層へは漸変する。

第4層は地表下概ね60cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。未風化細小角、半角礫を含み、色は10YRで彩度6、明度6~7。塊状構造で発達程度は強度である。細小孔を含み、ち密度2.5前後で密である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字仁頃 試坑No仁25D

第1層	0~20cm	腐植を含む暗褐色(7.5YR 4/4)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~35cm	腐植を含む褐色(7.5YR 4/4)のCL、発達中度の細塊状構造、細小孔を含む。ち密度2.0で中、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界漸変

第3層	35~60 cm	腐植を欠く明褐(7.5 YR 5/6)のCL、未風化細小半角礫を含む、発達強度の塊状構造、細小孔を含む、構造面に腐植、粘土被膜を有す。ち密度23で中、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第4層	60~	腐植を欠く明黄褐(10 YR 6.5/6)のC、未風化細小半角礫を含み、発達強度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度25で密、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	3.0	20.9	33.9	29.6	15.6	CL	2.84	0.24	12	4.9
2	20~35	2.7	17.2	29.8	31.9	21.1	CL	1.26	0.12	10	2.2
3	35~60	1.7	16.9	30.4	30.7	22.0	CL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.8	0.30	22.1	14.5	3.0	1.5	65.6	886	17.7
2	6.0	4.9	0.30	21.0	14.1	3.6	0.7	67.1	989	1.6
3	5.9	4.6	0.60	26.1	17.7	6.6	0.3	67.8	1205	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては緋牛内統、川向東統があるが、両統とも軽石流堆積物に由来するため本統とは母材が異り区別される。

A-3 母材 非固結水成岩、固結水成岩、変成岩混(泥岩質、赤色珪岩、礫岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

台地上の傾斜地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まわれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、苧類、ビート、馬鈴薯、牧草等が栽培されているが、一部山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

土壌の耐侵蝕性は比較的あるが、傾斜を有するため水蝕が発生するので防止対策が必要である。

F 分布 端野町川向の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和42年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
川 向 中 央—川 向 中 央	Ⅲ s II t p e

② 土壌区別説明

川向中央—川向中央

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 有 表 耕	土 表 表 透	自 保 湿	養 固 土	置 有 微 酸	障 有 物	災 增 地	傾 自 傾 入	侵 耐 耐
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 土 の 層 の 厚 含 深	土 土 の 風 乾 粘 土 難 着 硬	然 然 水 潤 肥 定	層 分 換 " " 性 態 量 塩 石 苦 加 磷 基 灰 土 里 酸 要 沃 状 豊 含 " " "	" " 効 害 理 冠 す 物 的 害 の 障 危 危 有 害 險 險	害 物 水 べ り 的 害 の 障 危 危 有 害 險 險	斜 為 傾 方	斜 為 傾 方	風 蝕 蝕 蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	Ⅲ	II I II 2 3 2	I 2 2 1	I 1 2 1	I 1 1 1 1 1 1	I 1 1 1	I 1 1 1	III 3	- II 2 2 1
	簡略分級式 Ⅲ s II t p e								

A 土壌区の特徴

この土壌区は川向中央統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は中粒質で粘着性強く耕起、碎土はやや困難である。保水性、透水性は中庸で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、固定力中、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の養分含量はやや高く、酸性を呈さない。下層は磷酸含量は低いが他の養分は比較的ある。特殊の障害性は存在しない。地形は波状性傾斜を有し水蝕発生のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、麦類、馬鈴薯、ビート、荳類、牧草等が栽培され、一部は山林原野または植林地になつている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、緑作帯設置、牧草作付等による水蝕防止対策が必要である。
牧草栽培、有機物施用によつて更に地力を増進せしめることが望ましい。

D 分 布 端野町川向の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和42年3月31日

忠 志 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量3~4%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度4。細粒状構造で発達程度は中程度である。細小孔に富み、ち密度1.3で疎である。pH(H₂O)7.1前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ40cm内外で腐植含量2%内外、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4~5。細塊状構造で発達程度は強度である。細小孔に富む、ち密度1.6前後で疎、pH(H₂O)6.4前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ40cm内外で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4~5、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む。ち密度1.4前後で疎、pH(H₂O)6.3前後、下層へは概ね漸変する。

第4層は地表下概ね100cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4~5。細塊状構造で発達程度は中程度である。細小中孔に頗る富む。ち密度1.0前後で疎。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字忠志 試坑No北60

第1層	0~20cm	腐植を含む褐色(7.5YR4/3)のCL、発達中程度の細粒状構造、細小孔に富む、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)7.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~60cm	腐植あり明褐(7.5YR5/4)のCL、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	60~100cm	腐植を欠く明褐(7.5YR5/4)のLiC、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り湿、境界漸変。
第4層	100~	腐植を欠く明褐(7.5YR5/4)のCL、発達強度の細塊状構造、細小中孔に頗る富む。ち密度1.0で疎、調査時の湿り湿~潤。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	4.5	0.9	44.9	32.7	21.5	CL	2.16	0.25	9	3.8
2	20~60	2.9	0.4	47.8	31.5	20.3	CL	1.15	0.15	8	2.0
3	60~100	4.0	0.9	36.2	35.8	27.1	LiC	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.1	6.0	0.2	41.1	31.9	2.1	1.0	77.6	1.155	40.0
2	6.4	5.3	0.2	35.8	22.8	2.6	0.7	63.7	1.030	16.1
3	6.3	5.1	0.5	41.2	24.7	5.0	0.5	60.0	1.370	20.4

A 土壌区の特徴

この土壌は忠志統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。保水性、透水性ともに中庸で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土、心土とも養分含量多く、理想的土壌に近いと考えられるが、一部は石礫の多いところ、強粘土のところが存在し、必ずしも良好な土壌ばかりとは限らない。特殊の障害性なく、地形平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、麦類、苧類、馬鈴薯、ビート等が栽培されているが、一部は水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

一部地形の関係で弱湿性を呈するところは軽度の排水を必要とする。その他は特記すべき事項はない。

D 分布 端野町忠志、常呂川及びその支流の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験所)

年 月 日 昭和42年3月31日

端 野 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4%内外、土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度4~5、ち密度18で疎、pH(H₂O)5.8前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ5cm内外で腐植含量1~2%、土性はLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度5。板状構造で発達程度は弱度である。ち密度16前後で疎、pH(H₂O)5.8、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ20~25cmで腐植含量2%内外、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4~5、細塊状構造で発達程度は強度である。細小孔に富む、ち密度16で疎、pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下、土性はLである。色は7.5YRで彩度4、明度5。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富み、ち密度14前後で疎、pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度5。細塊状構造で発達程度は強度である。細小孔に富む。ち密度16前後で疎。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町二区 試坑No北63

第1層	0~24cm	腐植を含む灰褐色(7.5YR5/3)のSL、発達弱度の細粒状構造、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	24~30cm	腐植を欠く褐色(7.5YR5/3)のSL、板状構造を呈し、ち密度16で疎、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第3層	30~54cm	腐植を含む灰褐色(7.5YR5/4)のCL、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界漸変。

第4層	54～70cm	腐植を欠く灰褐(7.5 YR 5/4)のL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り湿。境界平坦明瞭。
第5層	70～	腐植を含む灰色(7.5 YR 5/4)のLiC、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、pH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0～2.4	2.6	7.2	58.6	23.1	11.1	SL	85.7	3.04	1.37	0.15	8
2	3.0～5.4	0.7	1.2	50.5	29.0	19.3	CL	96.7	2.67	1.71	0.21	8
3	5.4～7.2	1.4	0.3	61.5	22.7	15.5	L	92.7	2.85	—	—	—
4	7.2～	3.5	0.8	32.6	41.2	25.4	LiC	—	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	2.4	5.8	4.95	0.30	21.0	14.3	2.0	3.3	68.1	621	—
2	3.0	5.8	5.05	0.30	27.4	20.5	3.3	0.4	74.8	990	15.7
3	—	6.3	5.5	0.30	27.9	21.9	3.6	0.4	78.5	869	15.8
4	—	6.1	5.05	0.30	—	—	—	—	—	1,100	10.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては端野中央統、端野東統等があるが、端野中央統とは母材が異なり、端野東統とは礫層の有無により、本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(古生層砂岩風化物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形

小河川の流域に分布する低平地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まわれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、荳類、ビート、馬鈴薯等が栽培されている。また一部は水稻が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地味良好な土壌であり、特記すべき事項はないが、局所的に過湿なところが存在するからかかるところは排水の要がある。

F 分布 端野町字一區、二區の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
端野北一端野北	II t

② 土壤区別説明

端野北一端野北

示性分級式（畑）

	土壌	表土	表耕	表土	表土	表土	透保	湿	固	土	置	有微	酸	障	有物	増地	傾	自傾	人	侵	耐	
	効土	転土	土	土	の地	然	層分	換	" "	効	害	冠す	斜	為	水	風	水	風	水	風	耐	
	産土	土	の	の	風	乾	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	害	の	の	の
	力	の	の	の	粘	土	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	害	の	の	の
	可	の	の	の	粘	土	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	害	の	の	の
	能	の	の	の	粘	土	水	水	潤	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	質	害	の	の	の
	性	厚	含	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "
	等	深	含	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "
	級	さ	量	易	湿	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
		t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e										
	II	II	II	II	1	2	1	II	2	2	1	II	1	1	1	1	1	1	1	1	2	II
		II	II	II	1	2	1	II	2	2	1	II	1	1	1	1	1	1	1	1	2	II
	簡略分級式	II t																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は端野北統に属する。表土の厚さは20～25cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は粗粒質で粘着性中庸で耕起、砕土は容易である。保水性中庸、透水性は良好で過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中で、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は高い。作土の養分含量は一般に高く、地味は比較的良好の部に属する。特殊の障害性は存在しない。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、荳類、ビート、馬鈴薯等が栽培され、一部は水田になつている。

C 地力保全上の問題点

地味やや良好な土壤であり、特起すべき事項はない。ただ局所的に過湿なところがあるからこのようなところは排水を施す要がある。

D 分布

端野町字一区、二区の一部。
 記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）
 年 月 日 昭和42年3月31日

端 野 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量2~3%、土性はSLが主である。色は10YRで彩度3、明度4、未風化細小円礫を含み、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.2で疎、pH(H₂O) 5.4前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はSLが主である。色は10YRで彩度3、明度4。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、ち密度1.5で疎、pH(H₂O) 6.4前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はSが主である。色は2.5Yで彩度4、明度4。ち密度1.3前後で疎、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、未風化細小中円礫に頗る富む砂礫層。

第5層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はSである。ち密度1.2で疎である。下層との境界は平坦明瞭である。

第6層は地表下85cm以下で未風化細小中大円礫からなる砂礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町二区 試坑No.北58

第1層	0~20cm	腐植を含む褐色(10YR 4/3)のSL、発達弱度の粒状構造、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O) 5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~38cm	腐植あり褐色(10YR 4/3)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O) 6.4、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	38~55cm	腐植を欠く暗黄褐(2.5Y 4/4)のS、単粒構造、ち密度1.3で疎、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第4層	55~70cm	未風化細小中円礫に 頗る富む砂礫層。
第5層	70~85cm	腐植を欠く暗黄褐(2.5Y 4/4)の砂層、ち密度1.2で疎、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第6層	85~	未風化細小中大円礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~20	2.2	22.0	47.9	16.7	13.2	SL	1.24	0.16	8	2.1
2	20~38	2.6	13.4	53.8	20.2	12.6	SL	0.98	0.16	6	1.7

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.5	3.0	17.2	11.0	3.6	0.7	63.9	480	28.4
2	6.4	5.4	0.3	21.0	16.4	3.2	0.3	78.1	400	17.2

A 土壌区の特徴

この土壌区は端野東統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50～100cmで中庸である。表土の土性は粗粒質で粘着弱く耕起、砕土は容易である。保水力小、透水性良好に過ぎ、一時的過干のおそれがある。保肥力大、固定力中庸で、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度はやや高い。有効態磷酸含量中庸で他の養分含量はやや高い。障害性、災害性は存在しない。地形は略々平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分畑地に利用され、麦類、苧類、ビート、馬鈴薯、その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

過干のおそれのあるところは粘土質土壌の客入を要し、一般に腐植含量少なく、かつ保水性がやや小さいから堆厩肥、緑肥の肥用が必要である。

D 分布 端野町字二区の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和42年3月31日

忠 志 小 沢 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cmで腐植含量3～4%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4。半風化小中大半角礫を含む。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10前後で疎、pH(H₂O)6.2前後、下層との境界は平坦明瞭。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量1～2%、土性はSCLが主である。色は7.5YRで彩度6、明度4。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、ち密度10～15で疎、pH(H₂O)6.2前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は地表下概ね35cm以下で腐植を欠き、半風化小中大半角礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町字忠志 試坑北23B

第1層	0～20cm	腐植を含む褐色(7.5YR 4/4)のLiC、発達弱度の粒状構造、半風化細小半角礫を含む、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20～35cm	腐植を欠く褐色(7.5YR 4/6)のSCL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度10前後で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第3層	35～	未風化小中大半角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分%	礫含量重量%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	3.8	5%内外	7.9	43.9	21.7	26.5	LiO	2.03	0.23	9	3.5
2	20~35	2.7	—	8.9	56.0	13.1	22.0	SCL	0.93	0.10	9	1.7

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.4	0.30	44.9	33.7	7.9	0.5	75.1	1.270	18.3
2	6.2	5.3	0.20	42.3	29.3	5.9	0.3	69.3	1.360	16.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては端野東統、豊美中央統、豊美東統等があるが、端野東統、豊美中央統とは母材が異り、豊美東統とは母材、堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（中生層頁岩風化物、赤色珪岩、古生層砂岩礫混）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形 小河川の流域に分布する低平地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、豆類、ビート、馬鈴薯その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

礫が浅く存在し、また地表から礫に頗る富むところも存在するので、除礫や、客土を必要とするところがある。局所的に山地の滲透水の影響を受けて排水不良を呈するところは排水の実施も必要であろう。

F 分布 端野町字 忠志の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
忠 志 小 沢—忠 志 小 沢	III d II t g p i

② 土壌区別説

忠志小沢一忠志小沢

示性分級式 (畑)

土壌	表土	有効土層	耕起	表土	表土	表土	透水性	保水性	自肥力	養分	置換	微酸性	物理的	障害	増地	傾斜	自傾	侵入	耐蝕
生産力	効土	土の	土の	土の	土地	然	風	乾	水潤	肥定	塩	石苦	加磷	害	冠す	水	斜	為	水風
可能	の層	の	の	乾	粘土	沃	性	性	度	力	力	量	素	無	性	度	斜	向	斜
性	厚	難	着	乾	硬	沃	性	性	度	力	力	量	素	無	性	度	斜	向	斜
等	深	含	性	性	性	性	性	性	度	力	力	量	素	無	性	度	斜	向	斜
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e								
III	II	III	II	II	3	3	2	I	1	2	1	I	1	2	1	I	1	1	1
簡略分級式	III d II t g p i																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は忠志小沢統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は30cm内外で浅い。表土の土性は細粒質で礫を混じ、粘着性大で耕起、碎土は困難をとまなう。保水性中庸で、透水性良好で礫層が浅いため一時的に過干になるおそれがある。

保肥力大。磷酸固定力中、土層の塩基状態は良好で表土の肥沃度は高い。作土の養分含量は一般に高く、地味良好の方である。礫層が極く浅く物理的障害を受ける。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、畑には荳類、ビート、馬鈴薯、その他の作物が栽培され、一部は水稻が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

表土は地味やや良好であるが礫層が浅くまた一部は地表から礫に傾る富むところが存在するから、礫のひどいところは除礫や客土が必要であろう。

一部は台地からの滲透水により排水不良となつているから滲透水を遮断する明渠排水の設置を要する。

D 分布 端野町仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和42年3月31日

豊 美 東 沢 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量3～4%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4。未風化細小中円礫を含み、粒状構造で発達程度は中程度である。ち密度1.2で疎、pH(H₂O)6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は5YRで彩度2、明度6。未風化細小円礫を含む。塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含み、斑状の酸化沈積物に富む。ち密度1.8で疎、pH(H₂O)5.6前後、下層との境界は漸変する。

第3層は厚さ15～20cmで腐植を欠き、土性はSが主である。色は10YRで彩度3、明度6、単粒構造、ち密度1.5で疎、斑状の酸化沈積物に頗る富む、下層との境界は明瞭である。

第4層は地表下概ね45cm以下で、未風化細小中大円礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町仁頃 試坑№仁20

第1層	0～15cm	腐植を含む褐色(7.5YR 4/4)のCL、発達中程度の粒状構造、未風化細小円礫を含む、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	15～30cm	腐植あり褐灰(5YR 6/2)のCL、未風化細小円礫を含む、発達中程度の塊状構造、細小孔含み、亀裂あり、斑状の酸化沈積物に頗る富む、ち密度1.8で疎、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り湿。境界漸変。
第3層	30～45cm	腐植を欠く黄橙(10YR 6/3)のS、斑状の酸化沈積物に富み、ち密度1.5で疎、調査時の湿り湿、境界明瞭。
第4層	45～	未風化細小中大円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～15	2.3	5%内外	14.8	46.9	22.0	16.3	CL	2.05	0.18	11	3.8
2	15～30	3.9	5%内外	16.0	45.3	21.0	17.7	CL	0.74	0.08	10	1.3

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.65	1.25	34.0	25.5	6.6	0.6	75.0	1,285	7.0
2	5.6	4.25	0.30	35.2	24.1	9.6	0.3	68.5	1,415	4.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては開拓統、豊美南統、豊美西統、豊美東統等があるが、何れも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(砂岩、頁岩風化堆積物)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形

小河川流域の低平地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、苜蓿、ビート、馬鈴薯、ハツカ等が栽培され、一部は水田になつている。

E 農業上の留意事項

下層礫層であるが地下水位高く排水不良を呈する。明渠、暗渠排水の完全な実施が必要である。有機物に乏しい土壌であるから牧草栽培、有機物質の施用が望ましい。

F 分布 端野町字仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊 美 東 沢一豊 美 東 沢	III t d w II p i

② 土壌区別説明

豊美東沢一豊美東沢

示 性 分 級 式 (畑)

	土 表 有 表 耕	土 表 表 透	自 保 湿	養 固 土	置 有 微 酸	障 有 物	災 増 地	傾 自 傾 人	侵 耐 侵
土 壤	効 土 耘	土 土 地	然	層 分 換	" " 効	害 理 冠	す	斜 為	水 風
生 産 力	土 土 の	の 風	乾 水 水	潤 肥 肥 定	塩 石 苦 加 磷	害 質 的 害	の 水 べ り	然 斜 為	の 蝕
可 能 性	の 層 礫	の 粘 土	乾 水 水	潤 肥 肥 定	塩 石 苦 加 磷	害 質 的 害	の 水 べ り	然 斜 為	の 蝕
等 級	厚 含 難	土 着 の 乾	沃 状 豊 含	" " "	基 灰 土 里 酸 要	の 障 危 危	傾 傾 方	傾 傾 方	蝕 蝕
	性 性 性 性	性 性 性 性	性 性 性 性	性 性 性 性	性 性 性 性	性 性 性 性	性 性 性 性	性 性 性 性	性 性 性 性
	さ さ 量 量	量 量 量 量	量 量 量 量	量 量 量 量	量 量 量 量	量 量 量 量	量 量 量 量	量 量 量 量	量 量 量 量
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	III III I II 2 3 2	III 1 2 3	I 1 2 1	I 1 1 1 2 1 1	II 1 2	I 1 1	I 1 - -	I 1 1 1	
	簡略分級式 III t d w II p i								

A 土壌区の特徴

この土壌区は豊美東沢統に属する。表土の厚さは 15cm 内外でやや浅く、有効土層は 50cm 以内で浅い。表土は礫を含み、中粒質で粘着性強く耕起、砕土にやや困難を感じる。透水性は良好であるが、地下水位が高いため過湿のおそれが多い。

保肥力大、固定力中で、土層の塩基状態は良好で、自然肥沃度はやや高い。作土の養分含量は比較的多く、下層土も中庸である。特殊の障害性は存在しないが、低温年には冷温害の影響を強く受ける。地形平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、豆類、ビート、馬鈴薯、ハツカ等が栽培されているが、一部は水田になっている。

C 地力保全上の問題点

過湿のおそれが多いから完全な排水の実施が必要である。有機物含量が少ないから、有機質の施用、牧草栽培等が望ましい。漸次深耕して作土層を深めることも大切である。

D 分布

端野町字仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

川 向 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17～20cmで腐植含量5%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度2、明度5である。粒状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む。ち密度18で疎、pH(H₂O)5.4前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%以下、土性はLiCが主である。色は2.5Yで彩度2、明度7～8。細塊状構造で発達程度は中度である。一部大角状を呈する。細小孔を含み、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度22で中、pH(H₂O)5.3、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はScLが主である。色は2.5Yで彩度2、明度7～8、塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.3前後、下層へは漸変する。

第4層は地表下概ね50cm以下で腐植を欠き、土性はHCである。色は10YRで彩度3、明度7、均質連結状構造、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度20で中。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字仁頃 試坑№北30

第1層	0～17cm	腐植を含む黄褐灰(10YR5/2)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	17～35cm	腐植を欠く灰白(2.5Y7/2)のLiC、発達中度の粒状構造、細小孔を含む、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度22で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	35～50cm	腐植を欠く灰白(2.5Y7/2)のScL、発達弱度の塊状構造、細小孔に富む、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿、境界漸変。
第4層	50～	腐植を欠く灰黄橙(10YR7/3)のHC、均質連結状構造、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度20で中、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~17	2.8	15.5	28.0	26.8	29.7	CL	3.17	0.36	9	5.4
2	17~35	3.0	10.8	24.9	36.4	27.9	LiC	—	—	—	0.5
3	35~50	3.1	40.5	20.4	12.1	17.0	ScL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.2	2.81	2.57	11.9	2.8	0.2	46.3	1.020	7.6
2	5.4	3.8	10.63	2.47	12.3	3.8	0.1	49.8	980	2.1
3	5.4	3.8	9.38	2.49	12.1	5.9	0.1	48.6	1.010	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、川向西統、端野中央西統があるが、川向西統とは母材、堆積様式が異り、端野中央西統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（頁岩質風化堆積物）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

常呂川流域の低平地で、古い河成段丘地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、苧類、ビート、玉ねぎ、馬鈴薯、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層粘質なため透水悪く排水不良を呈するところが多いから暗渠排水の完全な実施が必要である。有機物含量が少ないので堆肥、縁肥、牧草作付等による有機物の施用が望ましい。

F 分布 端野町字川向の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
川 向 南—川 向 南	III w II t p f n

② 土壌区別説明

川 向 南 — 川 向 南

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効	表	表	透	保	湿	置	有	微	酸	有
生	土	土	土	地	然	層	換	効	害	理	冠
産	土	土	土	の	の	の	の	の	物	水	す
力	の	の	の	風	乾	水	水	潤	質	の	の
可	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	害	害	の
能	の	の	の	粘	土	塩	石	苦	害	害	の
性	厚	深	難	着	硬	基	灰	土	里	酸	要
等	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	斜
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	2	2	Ⅲ	3	3	Ⅱ	1	2
	2	2	2	Ⅲ	3	3	Ⅱ	1	2	2	Ⅱ
	1	1	2	1	2	1	1	2	Ⅰ	1	1
	Ⅰ	1	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1
	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
	Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式	Ⅲ w Ⅱ t p f n										

A 土壌区の特徴

この土壌区は川向南統に属する。表士の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は中粒質であるが粘着性強く耕起碎土はやや困難性をともなう。保水性やや大きく、透水不良のため過湿のおそれが多い。

保肥力大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は中庸で自然肥沃度は中位である。作土は弱酸性で加里含量が低く、他の養分は比較的ある。下層は有機物に乏しく、磷酸、加里含量が低い、やや酸性を呈する。特殊の障害性は存在しないが湿害を被ることがある。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、荳類、ビート、玉ねぎ、馬鈴薯、牧草等が作付られている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水、明渠排水の完全実施が必要である。次に有機物の施用或は牧草栽培により土壌の有機物含量を増加させるとともに土壌構造の改善が必要である。またやや酸性を呈するから炭カルの施用も望ましい。

大型機械による急激な深耕の場合は有機物、炭カル、磷酸資材の投入が必要であろう。

D 分布 端野町字川向の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

北 登 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量6～7%、土性はCLが主である。未風化風化細小中円礫に富む、色は10YRで彩度1、明度3の場合が多い。粒状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富み、ち密度1.0で疎、pH(H₂O)6.1前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量2%内外、土性はCLが主である。未風化、風化小中大円礫に頗る富む。細塊状構造で発達程度は強度である。細小孔に富み、ち密度1.3で疎である。pH(H₂O)6.2前後、下層との境界は漸変である。

第3層は地表下概ね45cm以下で腐植を欠き、未風化、風化中大円礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町字仁頃 試坑No.仁7

第1層	0～25cm	腐植に富む黒色(10YR 3/1)のCL、未風化、風化細小円礫に富む、発達弱度の粒状構造、細小孔に富む、ち密度1.0で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	25～45cm	腐植を含む灰黄褐(10YR 4/3)のCL、未風化、風化小中大円礫に頗る富む、発達強度の細塊状構造で、細小孔に富む、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	45～	腐植を欠く、未風化、風化小中大円礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～25	0.9	10%内外	11.8	33.8	33.8	20.6	CL	3.57	0.30	12	6.2
2	25～45	2.8	30%内外	14.7	32.4	32.5	20.4	CL	1.18	0.11	10	2.0

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	4.9	0.30	20.6	15.6	0.5	0.2	75.7	788	18.6
	6.2	4.8								
2	6.2	4.8	0.30	15.6	10.0	1.8	0.3	64.1	762	6.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては開拓統、北登中央統があるが、何れも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩(中生層頁岩)

A-4 堆積様式 崩積(残積性)

B 地形

台地上の波状性傾斜地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷害を受ける。年平均気温5.2℃、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

耕地は麦類、豆類、馬鈴薯、牧草、ビート等が栽培されているが、他は山林原野になつている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため水蝕発生のおそれが多いから緑作帯、等高線栽培、牧草栽培等による水蝕防止対策が特に必要である。地表から礫が多く、透水良好なので保水力を高めるため有機物の施用、牧草栽培等は有効であろう。

F 分布 端野町字仁頃、北登の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
北 登 西-北 登 西	III ds II t g p n i e

② 土壌区別説明

北 登 西-北 登 西

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 層 の 礫 の 厚 等 級	表 土 の 粘 土 含 量	表 土 の 乾 燥 性 易 湿	自 然 の 水 潤 度	自 然 の 肥 力	養 分 の 定 量	置 換 の 性 質	有 機 物 の 障 害	微 酸 性 の 障 害	地 盤 の 傾 斜	自 然 的 傾 斜	人 工 的 傾 斜	耐 久 性 の 傾 斜																						
	tdgpp	w	f	n	i	a	s	e																											
	III	II	III	II	2	2	2	I	1	2	1	I	1	2	1	I	1	2	2	1	1	II	1	2	I	1	1	III	3	-	-	II	2	2	1
	簡略分級式		III ds II t g p n i e																																

A 土壌区の特徴

この土壌区は北登西統に属する。表土の厚さは20～25cmで中庸、有効土層は50cm内外で浅い。表土は礫に富み、中粒質で粘着性中庸で耕起碎土にやや困難性をともなう。保水性中庸、透水性良好で礫層が浅いため一時的過干のおそれがある。

保肥力大、固産力中、土層の塩基状態は良好で、自然肥沃度はやや高い。作土は苦土、加里含量がやや少なく、下層も加里含量が低い、酸性は呈さない。有効土層が浅く物理的障害を受ける。地形は波状性傾斜を有し、水蝕発生のおそれがある。

B 植生及び利用状況

耕地には豆類、馬鈴薯、ビート、牧草、その他が栽培され、その他は山林原野になつている。

C 地力保全上の問題点

緑作帯、牧草栽培、等高線栽培による水蝕の防止対策が重要である。一時的過干のおそれがあるから保水力の増大を図るため有機物施用、牧草栽培等が望ましい。養水分の流亡し易い土壌であるから加里、苦土は増施した方がよいと考えられる。

D 分布 端野町字仁頃、北登の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

川 向 南 東 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内で腐植含量8~9%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度1、明度2のものが多い。未風化細小中半角礫に富み、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10前後で疎、pH(H₂O)6.4前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量3%内外、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3のものが多い。未風化細小中半角礫に頗る富む、発達強度の細塊状構造、ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.8前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はCLが主である。未風化細小中半角礫に頗る富み、色は7.5YRで彩度4、明度5。細塊状構造で発達程度は中度である。ち密度20前後で中、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下概ね45cm以下で未風化小中大半角、角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡端野町字協和 試坑No美16

第1層	0~20cm	腐植に富む黒色(7.5YR 2/1)のCL、未風化細小中半角礫に富む、発達弱度の細粒状、粒状構造、ち密度10前後で疎、pH(H ₂ O)6.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~30cm	腐植を含む暗褐(7.5YR 3/3)のCL、未風化細小中半角礫に頗る富む、発達強度の細塊状構造で細小孔に富む、ち密度20前後で中、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	30~45cm	腐植を欠く灰褐(7.5YR 5/4)のCL、未風化細小中半角礫に頗る富む、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度20前後で中、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第4層	45~	未風化小中大半角、角礫からなる礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	3.4	20%内外	15.2	37.0	28.8	19.0	CL	4.82	0.42	12	8.3
2	20~30	2.1	30%内外	20.8	28.4	27.9	22.9	CL	1.76	0.19	9	3.0

層位	pH		置換酸度 γ_1	塩基置換容量 $me/100g$	置換性塩基 $me/100g$			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 $mg/100g$
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.4	5.6	0.30	3.12	2.79	1.5	0.7	89.4	1.100	14.0
2	5.8	4.5	0.60	19.3	11.2	2.6	0.5	58.0	90.9	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては緋牛内統、川向中央統等があるが、何れも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩、非固結水成岩（頁岩、凝灰質）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形

丘陵地に連がる波状性傾斜地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷害を受ける。

D 植生及び利用状況

耕地は麦類、荳類、ビート、馬鈴薯、牧草、その他が作付けられている。他は山林原野または植林地になっている。

E 農業上の留意事項

傾斜地のため水蝕の発生が大きいから防止対策が必要である。

F 分布 端野町字川向の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
川 向 南 東—川 向 南 東	III ds II t g p i e

② 土壤区別説明

川向南東一川向南東

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																							
壤	効	土	表	表	土	透	保	置	有	物	増	自	傾	人	侵	耐																		
生	土	土	土	土	地	然	層	換	"	"	効	害	理	冠	す																			
産	土	の	の	の	の	の	の	の	性	態	量	物	的	水	べ	然	斜	為	水	風														
力	の	層	の	の	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	害	の	の	の	蝕										
可	の	礫	粘	土	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	蝕									
能	の	含	難	着	硬	沃	状	豊	含	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	蝕									
性	厚	深	性	性	さ	性	性	度	力	態	量	素	度	無	性	度	度	傾	向	傾	度	性	性											
等	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕																							
級																																		
	t	d	g	p		w		f		n		i	a	s		e																		
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	2	2	2	Ⅰ	1	2	1	Ⅰ	1	2	1	Ⅰ	1	1	1	1	1	Ⅱ	1	2	Ⅰ	1	1	Ⅲ	3	--	Ⅱ	2	2	1
簡略分級式	Ⅱ ds Ⅱ t g p i e																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は川向南東統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は50cm内外で浅い。作土の土性は中粒質で粘着性中庸であるが半角礫に富み耕起碎土はやや困難をともなう。保水性中庸、透水良好で一般に過湿のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中庸、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度はやや高い。作土の養分含量は比較的あるが、下層は磷酸、加里が少ない。礫層が浅く物理的障害を受ける。傾斜地のため水蝕発生のおそれがある。

B 植生及び利用状況

耕地は麦類、荳類、ビート、馬鈴薯、牧草等が栽培されている。他は山林原野または植林地になっている。

C 地力保全上の問題点

緑作帯、等高線栽培、牧草作付等水蝕防止対策が必要である。伏流水の影響を受けるところは捕水渠の設置が望ましい。

D 分布 端野町字川向の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

豊 美 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量5%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度2。粒状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富み、ち密度15で疎、pH(H₂O)6.0、下層

との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量2%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度3、明度4。細塊状構造で発達程度は中度である。細小孔に富む、ち密度20で中である。pH(H₂O)6.5前後、下層との境界は漸変である。

第3層は地表下概ね35cm以下で未風化細小中大角礫からなる礫層、なお風化土壌が下層まで混入している。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町字仁頃 試坑No.仁6

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/3)のCL、発達弱度の粒状構造、細小孔に富む、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~35cm	腐植を含む灰黄褐(10YR 4/3)のL、発達中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)6.5、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	35~	未風化細小中大角礫からなる礫層。なお風化土壌を下層まで含んでいる。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~20	3.4	17.3	28.4	33.2	21.1	CL	3.27	0.30	11	5.7
2	20~35	0.2	11.9	30.6	43.0	14.5	L	1.17	0.15	8	2.0
3	35~		17.9	33.5	29.1	19.5	CL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	4.9	0.30	21.9	17.0	2.1	0.3	77.6	660	16.1
2	6.5	5.1	0.30	16.3	11.8	1.1	0.4	72.4	633	7.2
3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては豊美西統、忠志小沢統、豊美東沢統等があるが、何れも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩(三紀層泥岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形

台地上の波状性傾斜地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷害を受ける。年平均気温5.2℃、年間降水量800mm前後。

D 植生及び利用状況

緑作帯、等高線栽培、牧草栽培等による水蝕防止対策が特に必要である。
腐植を多く含むが、有機物施用、牧草栽培等によつて常に地力の維持増進に努めることが肝要である。

D 分布 端野町字仁頃、忠志の一部
記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和42年3月31日

仁 頃 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量6~7%、土性はCLが主である。未風化小中半角礫に富む、色は7.5YRで彩度3、明度3、粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度17前後で疎、pH(H₂O)前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量1~2%、土性はCLが主である。未風化細小中半角、角礫に富み、色は7.5YRで彩度4、明度4。細塊状構造で発達程度は強度である。細小孔を含む、ち密度18で疎、pH(H₂O)6.3前後、下層との境界は漸変する。

第3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はCLが主である。未風化小中半角、角礫を含む、細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔を含む、ち密度20前後で中、下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね60cm以下で腐植を欠き、未風化小中大半角、角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北見市仁頃 試坑_北仁8B

第1層	0~20cm	腐植に富む暗褐(7.5YR 3/3)のCL、未風化小中半角礫に富む、発達弱度の粒状構造、ち密度17で疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~35cm	腐植を含む褐色(7.5YR 4/4)のCL、未風化細小中半角、角礫に富む、発達強度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	35~60cm	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/6)のCL、未風化細小中半角、角礫を含む、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、ち密度20で中、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第4層	60~	未風化細小中半角、角礫からなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~20	2.4	13.4	36.3	29.5	20.8	CL	3.84	0.35	11	6.6
2	20~35	1.5	11.7	33.7	31.1	23.5	CL	0.92	0.10	9	1.6

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.2	5.2	0.3	27.4	24.9	3.9	0.4	90.6	816	5.7
2	6.3	4.6	0.3	17.6	13.6	2.6	0.0	77.4	836	2.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては開拓統、仁頃河段統があるが、開拓統とは母材が異り、仁頃河段統とは母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 固結水成岩、変成岩（古生層砂岩、赤色珪岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形

台地上の波状性傾斜地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、苧類、ビート、馬鈴薯、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

傾斜のため水蝕のおそれが多いから水蝕防止対策が特に必要である。また地味瘠薄化を防ぐため有機物施用、牧草栽培等の事項が必要であろう。

F 分布 端野町字仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
仁 頃 - 仁 頃	III se II t d gp

② 土壤区別説明

仁 頃一仁 頃

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 土 層 厚 深	有 効 土 土 層 厚 深	耕 耘 土 土 層 厚 深	表 土 土 層 厚 深	表 土 土 層 厚 深	土 質 粘 土 乾 燥 性 易 湿	自 然 潤 肥 沃	土 質 粘 土 乾 燥 性 易 湿	保 固 層 分 性 質 基 状 豊 含	養 置 換 効 能 量 量 量 量	障 害 物 質 障 害 有 害	微 酸 性 態 量 量 量 量	災 害 物 質 障 害 有 害	傾 斜 危 險	侵 蝕 水 風 蝕 蝕	耐 風 蝕 蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e								
Ⅲ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	2 2 2	I 1 2 1	I 1 2 1	I 1 1 1 1 1 1	I 1 1	I 1 1	Ⅲ 3 - - Ⅲ 2 3 1								
簡略分級式	Ⅲ s e Ⅱ t d g p															

A 土壤区の特徴

この土壤区は仁頃統に属する。表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は60cm内外で中庸である。表土の土性は中粒質で、粘着性中庸であるが堅硬な礫に富むので耕起碎土はやや困難性をともなう。保水性中庸、透水性良好であり、過湿、過干のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中庸で土層の塩基状態は良好であり、自然肥沃度は中庸である。作土の養分含量はやや高い。

障害性、災害性は存在しない。地形は緩傾斜～傾斜を呈し水蝕発生のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、荳類、ビート、馬鈴薯、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

緑作帯、等高線栽培、牧草栽培等による水蝕防止対策が特に必要である。また水蝕と併せて透水性も良好なため養分肥分の流亡、一時的過干が予想されるので牧草栽培や有機物施用によつて保水力、保肥力を増大せしめることが望ましい。

D 分 布 端野町字仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

端 野 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量4%内外、土性はSCLである。未風化細小半角礫に富み、色

は7.5 YRで採度3、明度3のものが多い。細小孔に富む、ち密度15前後で疎、pH(H₂O)6.1前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ30～40cm内外で腐植含量2%以下、土性はSCLが主である。

未風化細小中角礫を含む、色は7.5 YRで彩度4、明度4の場合が多い。

細小孔に富む、ち密度17で疎、pH(H₂O)6.3前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はSとCの互層、未風化細小中半角、角礫に富む、色は7.5 YRで彩度4、明度4のものが多い。ち密度15内外で疎、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は概ね地表下80cm以下で、未風化細小中大半角、角礫からなる礫層。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡端野町字 試坑北71

第1層	0～20cm	腐植を含む暗褐色(7.5 YR 3/3)のSCL、未風化細小中半角礫に富む、発達弱度の粒状構造、細小孔に富む、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20～60cm	腐植を含む褐色(7.5 YR 4/4)のSCL、未風化細小中半角、角礫を含む、発達強度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度17で疎、pH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り半湿、境界漸変。
第3層	60～80cm	腐植を欠く褐色(7.5 YR 4/4)のSとCの互層、未風化細小中礫に富む、ち密度15で疎、調査時の湿り湿、境界漸変。
第4層	80～	未風化小中大半角、角礫からなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～20	0.6	10～20	2.40	3.78	18.0	2.02	ScL	2.58	0.29	9	4.4
2	20～60	2.1	5～10	2.64	3.13	1.94	2.29	ScL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	4.6	0.30	4.48	3.33	3.1	0.3	7.43	1.395	2.33
2	6.3	4.3	0.60	4.47	3.87	2.9	0.2	8.66	1.690	7.4

A-2 他の土壌統の関係

本統に隣接または類似する統としては開拓統、端野中央西統、端野中央北統等があるが、何れも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 変成岩、固結水成岩(赤色珪岩、古生層砂岩)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地形

山地に連なる傾斜地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まわれ、しばしば冷害を受ける。

年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

緩傾斜地は耕地に利用され、麦類、苳類、ビート、馬鈴薯等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

傾斜のため水蝕の防止対策が必要である。有機物含量が少ないので堆肥、緑肥の施入或牧草栽培により更に地力を増進することが望ましい。

F 分布 端野町字一区、二区の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 42 年 3 月 3 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
端 野 西一端 野 西	II t d g s e

② 土壌区別説明

端 野 西一端 野 西

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	表 土	表 土	透 保 湿	自 然	固 土 層	置 換	有 微 酸	障 害	災 害	傾 斜	侵 蝕	耐 性																			
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 土 土 土	土 土 土 土	土 土 土 土	然 然 然 然	層 分 層 分	の 性 態 量	の 石 苦 加 磷	害 害 害 害	物 害 物 害	障 害 障 害	地 冠 水 べ 然 斜 為 水 風	自 傾 人 斜 為 水 風	耐 性 耐 性																			
	の 層 磔 粘 土 着 乾 沃 状 豊 含	の 乾 水 水 潤 肥 肥 定 塩 基 灰 土 里 酸 要	の 風 土 土 土 土	の 水 水 水 水	の 肥 肥 肥 肥	の 石 苦 加 磷	の 害 害 害 害	の 障 害 障 害	の 障 害 障 害	の 障 害 障 害	の 障 害 障 害	の 障 害 障 害	の 障 害 障 害																			
	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含	厚 含 難 土 着 乾 沃 状 豊 含																			
	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量	量 易 性 性 性 性 度 力 力 態 量																			
	tdgp	w	f	n	i	a	s	e																								
	II	II	II	I	2	2	1	I	2	2	1	I	1	2	1	I	1	1	1	I	1	1	I	1	1	II	2	--	II	2	2	1
	簡略分級式 II t d g s e																															

A 土壌区の特徴

この土壌区は端野西統に属する。表土の厚さは 20cm 内外で中庸、有効土層は 80cm 内外で中庸である。表土の土性は中粒質で粘着性中庸で耕起、砕土はやや容易である。保水性中庸、透水性良好で過湿、過干のおそれは少ないが、ところにより伏流水の影響を受けて過湿になるところがある。

保肥大大、磷酸固定力中、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度はやや高い。作土の養分含量は加里は中庸で他は一般に多い。酸性は呈さない。特殊の障害性は存在しない。地形は緩傾斜～傾斜を呈し侵蝕のおそれがある。磔含量が一般に多く、磔に多いところは養分の流亡が起り易い。

B 植生及び利用状況

緩傾斜地は耕地に利用され、麦類、荳類、ビート、馬鈴薯、牧草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

緑作帯、等高線栽培、牧草栽培等により水蝕を防止することが必要である。腐植含量が少ないので牧草栽培、堆肥施用により更に地力を増進せしめることが望ましい。

D 分布 端野町字1区、2区の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月31日

仁 頃 河 岸 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm内外で腐植含量9%内外、土性はCLが主である。未風化細小中円、半角礫を含み、色は7.5YRで彩度1、明度1。粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度16で疎、pH(H₂O)5.3前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20~30cmで腐植含量2~3%、土性はLiCが主である。色は7.5YRで彩度4、明度4。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、ち密度16前後で疎、pH(H₂O)5.2前後、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLが主である。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、ち密度20前後で中、下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はCLが主である。細塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度20前後で中。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北見市仁頃 試坑No仁15C

第1層	0~25cm	腐植に富む黒色(7.5YR 2/1)のCL、未風化細小円礫を含む、発達弱度の細粒状構造、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	25~50cm	腐植を含む褐色(7.5YR 4/4)LiC、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	50~70cm	腐植を欠く褐色(7.5YR 4/6)のL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度20前後で中、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第4層	70~	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/6)のCL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度20前後で中、調査時の湿り湿、斑状酸沈積に富む。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~25	3.3	2.1	46.9	27.4	23.6	CL	5.50	0.51	11	9.5
2	25~50	2.6	5.2	33.6	31.0	30.2	LiC	1.70	0.19	9	2.9

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.0	3.10	29.2	14.4	5.7	0.4	49.2	1.170	1.7
2	5.2	4.4	1.30	37.3	20.9	2.6	0.7	56.1	989	19.7

A-2 他の土壌統との関係

本壤に隣接または類似する統としては豊美西統、豊美中央統、北登中央統等があるが、何れも堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地形

台地と沖積低平地の間に分布する緩傾斜～平坦地。

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まれ、しばしば冷湿害を受ける。年平均気温 5.2℃、年間降水量 800mm 前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、豆類、ビート、馬鈴薯、ハツカ等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

台地からの伏流水の影響を受けて湿性を呈するところが一部存在するから、かかるところは明渠排水、暗渠排水の施行が必要であろう。一般に冷湿害対策のため軽度の暗水が望ましい。

F 分布 端野町仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和 42 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
仁 頃 河 岸—仁 頃 河 岸	II t w s

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~30cmで腐植含量9~10%、土性はLiCが主である。色は10YRで彩度1、明度1のものが多く、粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度18で疎、pH(H₂O)5.4前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下、土性はSCLが主である。色は10YRで彩度2、明度7のものが多く、未風化細小礫を含む、細小孔に富む。塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度19で中、pH(H₂O)5.3前後、斑状の酸化沈積物を含む。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ30cm内外で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は10YRで彩度4、明度7、単粒構造、細小孔に頗る富む。斑状の酸化沈積物を含み、ち密度15で疎、pH(H₂O)5.4前後、下層との境界は漸変である。

第4層は地表下概ね70cm以下で腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで彩度2、明度7のものが多く、単粒構造でち密度15で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 北見市仁頃 試坑No仁15

第1層	0~27cm	腐植に富む黒色(10YR1/1)のLiC、発達弱度の細粒状構造、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	27~40cm	腐植あり淡黄褐灰(10YR7/2)のSCL、未風化細小礫を含む、発達弱度の塊状構造、細小孔に富む、ち密度19で中、pH(H ₂ O)5.3斑状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	40~70cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR7/4)のSL、発達弱度の塊状構造、細小孔に頗る富む、ち密度15で疎、pH(H ₂ O)5.4、斑状の酸化沈積物を含む、調査時の湿り湿、境界漸変。
第4層	70~	淡黄褐灰(10YR7/2)のS、単粒構造、ち密度15で疎、調査時の湿り湿、100cmで湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~27	3.2	7.9	40.0	23.6	28.5	LiC	5.53	0.52	11	9.5
2	27~40	1.9	24.7	39.6	19.7	16.0	SCL	0.74	0.12	6	1.3
3	40~70	0.9	13.6	55.2	19.3	11.9	SL	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.3	35.0	35.3	14.2	0.4	0.2	37.1	1.260	20.0
2	5.3	4.0	4.69	14.5	7.0	0.3	0.2	35.9	61.2	8.6
3	5.4	4.0	2.81	14.1	8.4	2.2	0.3	48.5	64.6	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては開拓統、豊美中央統、北登中央統等があるが、何れも堆積様

式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形

沖積低平地と台地と間に分布する緩傾斜～平坦地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まわれ、しばしば冷湿害を受ける。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、荳類、馬鈴薯、ビート、ハツカ等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

過湿のおそれが多いから完全な暗渠排水の実施が必要である。

F 分布 端野町字仁頃の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
仁 頃 河 段-仁 頃 河 段	III w II f

② 土壌区別説明

仁頃河段-仁頃河段

示 性 分 級 式（畑）

土 壤	表 表 表	土 自 養 障 災 傾 侵	透 保 湿	保 固 土	置 有 微 酸	有 物 増 地	自 傾 人 侵 耐 耐
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 耕 土 の 層 の 礫 厚 深	土 地 然 の 風 粘 土 着 硬	乾 水 水 潤 の 肥 定 塩 の 石 苦 加 磷 基 灰 土 里 酸 要	層 換 〃 〃 〃	の 性 態 量 〃 〃 〃	害 理 冠 す 水 べ り 然 為 水 風 物 質 的 害 の 危 危 傾 傾 方 有 害 險 險	斜 為 水 風 腐 蝕 腐 蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s e
	III I I I II 3 2 1 III 1 2 3 II 1 2 2 I 1 1 1 2 1 2 I 1 1 I 1 1 I 1 - - I 1 1 1						
	簡略分級式	III w II t					

A 土壌区の特徴

この土壌区は仁頃河段統に属する。表土の厚さは25cm以上で深く、有効土層も1m以上で深い。表土の土性は細粒質で粘着性中庸、耕起、碎土はやや困難性をともなう。保水性中庸で透水性良好で

あるが、台地からの滲透水により過湿のおそれが多い。

保肥力大、磷酸固定力中庸、土層の塩基状態も中庸で自然肥沃度は中庸である。作土の養分含量は中庸であるが、下層はやや低い。弱酸性を呈する。特殊の障害性は存在しない。地形は緩傾斜～平坦で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、麦類、豆類、馬鈴薯、ビート、ハツカ等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

完全な暗渠排水の実施が必要である。施肥は加里、苦土、磷酸に重点を置き、特に冷湿年には生育遅延を来さぬ様窒素の施用に対する注意が必要である。

D 分 布 端野町字仁頃の一部

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和 4 2 年 3 月 3 1 日

3 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

水 田

保全対策地区名	該当土壌区	面積(㌧)	主な特徴	主要な保全対策
端野中央	端野南—端野南 端野中央—端野中央	319	磷酸、加里が少ない 一部は透水がよい	施肥合理化 漏水防止
北登中央	北登中央—北登中央 豊美中央—豊美中央	142	排水中庸 磷酸、加里が少ない 腐植が少ない	施肥合理化 有機物施用
端野中央西	川向沢—川向沢 緋牛内東—緋牛内東 端野中央西—端野中央西 端野中央北—端野中央北	521	排水不良 磷酸、加里が少ない 一部腐植が少ない	排水 施肥合理化 一部有機物施用

畑

保全対策地区名	該当土壌区	面積(㌧)	主な特徴	重要な保全対策
川向東	開拓—開拓 川向西—川向西 川向東—川向東 緋牛内—緋牛内 仁頃河岸—仁頃河岸	2417	風水蝕を受け易い 地力が低下し易い 磷酸、塩基が少ない	侵蝕防止 有機物施用 施肥合理化
川向中央	川向中央—川向中央	404	水蝕が発生する 腐植が少ない	侵蝕防止 有機物施用
豊美西	協和—協和 豊美南—豊美南 豊美西—豊美西	488	水蝕が発生する 盤層が浅い 過湿、過干のおそれがある。	侵蝕防止 有機物施用 心土破碎 一部軽度の排水

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重なる保全対策
忠 志	忠 志—忠 志 端 野 北—端 野 北 端 野 西—端 野 西	343	排水中庸 土層深く土壌良好 腐植含量少ない	有機物施用
仁 頃	北 登 西—北 登 西 川 向 南 東—川 向 南 東 豊 美 東—豊 美 東 仁 頃—仁 頃	775	水蝕が発生する 礫層が浅い 腐植が少ない	侵蝕防止 有機物施用 深 耕 施肥合理化
端 野 東	端 野 東—端 野 東 忠 志 小 沢—忠 志 小 沢 豊 美 東 沢—豊 美 東 沢	438	排水中庸で礫が浅い 腐植が少ない	有機物施用 施肥合理化
川 向 南	川 向 南—川 向 南 仁 頃 河 段—仁 頃 河 段	84	排水不良 下層やや密 磷酸、加里に不足	排 水 施肥合理化

2) 保全対策地区別説明

水 田

< 端野中央保全対策地区 >

(1) 分 布 状 況

郡市町村名	水田面積(ha)	備 考(該当土壌区)
常呂郡端野町	319	端野南—端野南、 端野中央—端野中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

排水良好な水田土壌で、一部は漏水気味のところもある。また一部は礫層の浅いところも存在する。磷酸、加里がやや少ない傾向を有する。

この地帯は稲作限界地帯に位し、初期、盛夏にしば低温に見まわれ、初期生育の遅延或は減数分裂期に障害受け、更に初霜が早く襲来する等気象的災害が大きい。

② 営農の方向その他

安全確収と経営経済の安定が特に必要であり、水稻単作のみでなく他の作目や畜産の加味が必要でろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資料及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
1. 施肥合理化	端 野 南—端 野 南 端 野 中央—端 野 中央 319ha	磷酸、加里の増施	指 導	
2. 漏水防止	端 野 中央—端 野 中央 266ha	鋤床の堅密化 粘土の客入	工事費の助成	

② その他

気象的災害を受ける可能性の強い年は特に品種の撰択、健苗の育成、初期生育の促進を図る必要がある。

区画拡大実施の場合、礫層の浅いところは表土処理の必要があり、また端野中央統では下層土が露出した場合、有機物、燐酸質肥料の投入が必要である。

< 北登中央保全対策区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	水田面積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
常呂郡端野町	142	北登中央—北登中央、 豊美中央—豊美中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

排水中庸な水田土壌である。頁岩、砂岩を母材とする地味中庸な土壌であるが、腐植含量少なく、燐酸、加里含量がやや低い。一部礫層の浅いところが存在する。

この地帯は稲作限界地点に位し、初夏、盛夏にしばしば低温に見まれ、初期生育の遅延或いは減数分裂期に障害を受け、更に初霜が早くしゆう来するなど気象災害が大きい。

② 営農の方向、その他

安全確収と経営経済の安定が特に必要なので、水稲単作のみでなく他の作目、畜産の導入等が考慮されるべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
施肥合理化	北登中央—北登中央 豊美中央—豊美中央 142ha	燐酸、加里の増施 苦土の施用	燐酸肥料として熔成燐肥の併用	
有機物施用	同 上	堆厩肥、素わらの施用	素わらは秋撒布、秋鋤込みとし、10a当り300～400kg以下とする。	

② その他

気象的災害を受ける可能性の強い年は、これを回避し或いは軽減するため、品種の撰択、健苗の育成、初期生育の促進化を図るための施肥改善、水管理等に特段の技術の向上が必要であろう。

区画拡大の場合は礫層の浅いところを除いては作土、下層土の性状の異が小さいから表土処理の必要は少ないと思われ、礫層の浅いところは当然表土処理が必要になる。

＜端野中央西保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	
常呂郡端野町	521	川向沢－川向沢、緋牛内東－緋牛内東、端野中央西－端野中央西 端野中央北－端野中央北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

グライ層が地表下60cm内外から出現する土壌で、当地帯の水田としては排水がやや不良気味の土壌である。磷酸、加里含量がやや低く、一部は腐植が少ない。一部は排水不良を呈するところもある。

当地帯は稲作限界地点に位し、初夏、盛夏にしばしば低温に見まわれ、初期生育の遅延、減数分裂期に障害を受け、更に初霜が早くしゅう来する等気象的災害が大きい。

② 営農の方向、その他

安全確収と経営経済の安定が必要なので、水稲単作のみでなく他の作目や畜産の導入等を考慮することが必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の積類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	川向沢－川向沢 緋牛内東－緋牛内東 端野中央西－端野中央西 端野中央北－端野中央北 521ha	明渠排水、暗渠排水の実施	素焼土管、塩化ビニールパイプ等工事費の助成	
施肥合理化	同上	磷酸、加里の増施		
有機物施用	川向沢－川向沢 緋牛内東－緋牛内東 263ha	堆厩肥、素わらの施用	素わら施用は秋撒布または秋鋤き込みとし、10a当り300～400kg以下とする。	

畑

＜川向東保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	
常呂郡端野町	2,417	開拓－開拓、川向東－川向東、仁頃河岸－仁頃河岸、 川向西－川向西、緋牛内－緋牛内

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

軽石風化物を母材とする土壌で耐侵蝕性に乏しい。地形は波状性緩傾斜～傾斜を呈するため水蝕の発生が起り、また一部は風蝕発生のおそれもある。一般に塩基置換容量は大きいが養肥分の溶脱が起り易い傾向があり、磷酸固定力が強く、作土は施肥管理等によつて有効態磷酸はあるが、下層は磷酸に欠乏している。従つて開墾間もない畑や急激な深耕を行なつた場合は磷酸欠乏を来し易い。風水蝕を受けているところは有機物に不足し、磷酸、塩基にも不足しているため磷酸、苦土欠乏等を来し易い。

② 営農の方向、その他

常に有機物を施用して地力を維持することが特に必要であるから、堆厩肥の生産、牧草栽培等が取入れられた経営が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
侵蝕防止	開拓一開拓 川向一川向西 川向一川向東 緋牛内一緋牛内 仁頃河岸一仁頃河岸 2,417ha	防風林の設置 緑作帯の設置 等高線栽培 牧草の作付	指導の徹底	
有機物施用	同上	堆厩肥、緑肥の増施、牧草栽培	畜産の推進 休閑地の設定	
施肥合理化	同上	磷酸、加里の増施、苦土、硼素入肥料の使用	深耕時には磷酸を投入し、肥料を増量すること	

② その他

< 川向中央保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡端野町	404	川向中央一川向中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本土壌は赤色珪岩、緑泥変岩等が粘土によつて半固結化された礫岩の風化土壌と考えられ、養肥分や多く地力的にさしたる問題はないが、傾斜～急傾斜地のため水蝕の発生が多い。農業上複合傾斜による農作農の不便さと侵蝕が大きな問題であり、地理条件がやや悪い点も一つの難点と考えられる。

② 営農の方向、その他

水蝕防止による牧草作付面積の増大を取上げるならば自づと畜産主体の経営にならざるを得ないであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
侵蝕防止	川向中央—川向中央 404ha	緑作帯の設置、等高線栽培の実施、牧草栽培	指導の徹底	
有機物施用	同上	堆厩肥、緑肥の施用、牧草栽培	畜産経営の推進	

< 豊美西保全対策区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡端野町	488	協和一協和、豊美南—豊美南、豊美西—豊美西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地表下30～50cmから堅密な盤層が出現し、湿潤な時期には一時的に停滞水を生じ農作業に不便を来し、湿害を受けることがある。また乾燥期には土壌が乾燥し過ぎて土塊が砕土困難なり過干気味となつて発芽障害を受ける場合がある等土壌水分調節に困難性を伴う土である。一般に酸性を呈し、磷酸、塩基が少ない傾向を有し、瘠薄な土壌である。傾斜面の一部では盤層を有しないところがあり、かかるところは停滞水を生ずることは少なくそれ程過湿にならない。傾斜を有するので水蝕の発生がある。

② 営農の方向、その他

地力の維持増進のためには結局堆厩肥の施用、緑地の施入等が第1であるから、このことに主体を置いた経営形態が望ましいと云うことになる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
侵蝕防止	協和一協和 豊美南—豊美南 豊美西—豊美西 488ha	緑作帯の設置 等高線栽培 牧草栽培	指導の徹底	

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
心土破碎	協 和 協 和 豊 美 南 一 豊 美 南 豊 美 西 一 豊 美 西 488ha	大型機械による心土破碎	大型トラクターの導入または貸付、工事費の一部助成	盤層が50cm以下にある場合の効果は低い。
一部排水	同 上	暗渠排水（心土破碎と併用が必要）		
有機物施用	同 上	堆厩肥、緑肥の施用、牧草栽培	指導の徹底 畜産経営の推進	

② その他

この区では低温多雨による即ち冷害年による畑作物の被害程度が大きいから、干魃防止の改善もさることながら湿害を避けるための暗渠排水、心土破碎の組合せ工事が特に必要であろう。

< 忠志保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
常呂郡端野町	343	忠志一忠志、端野北一端野北、端野西一端野西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

土層深く中粒質で、排水中庸な土壌であり、土壌の養分含量もやや多く特記すべき問題点はない。ただ局所的に排水不良を呈するところ、砂質、礫質のため過干になるところが存在する。

② 営農の方向、その他

畑作、そ菜栽培が行なわれている。気象条件に合致した作物であればその収量は比較的高いので今後は更に集約化された経営が進められるであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	忠 志 一 忠 志 端 野 北 一 端 野 北 端 野 西 一 端 野 西 343ha	堆厩肥、緑肥の施用	指導	地力の維持が必要

② その他

局所的に排水不足のところは明渠排水の実施、砂礫の甚だしいところは客土等の実施が必要である。

＜ 仁 頃 保 全 対 策 地 区 ＞

(1) 分 布 状 況

郡市町村名	面 積 (ha)	備 考 (該 当 土 壤 区)
常呂郡端野町	7 7 5	北登西一北登西、豊美東一豊美東、川向南東一川向南東、仁頃一仁頃

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地表から礫を多く含む土壌で傾斜地が多く水蝕が発生する。一般に礫層が浅く、透水良好で著しい場合は早魃になるところがある。

土壌の養分含量は比較的多く地力は比較はあるが、有機物含量が少なく、石礫の多いところは透水過良のため養分の溶脱が早く、水蝕によつて瘠薄化は比較的早いと考えられる。

② 営農の方向、その他

有機物補給、侵蝕防止に主眼を置いた経営が望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備 考
侵 蝕 防 止	北 登 西一北 登 西 川 向 南 東一川 向 南 東 豊 美 東一豊 美 東 仁 頃 一 仁 頃 7 7 5 ha	緑作帯の設置 等高線栽培 牧草作付	指導の徹底	
有機物施用	同 上	堆厩肥、緑肥の施用、牧草作付	畜産の振興	
深 耕	同 上	20cm内外に深める		
施肥合理化	同 上	加里、苦土に重点を置くこと	指導の徹底	

＜ 端 野 東 保 全 対 策 地 区 ＞

(1) 分 布 状 況

郡市町村名	面 積 (ha)	備 考 (該 当 土 壤 区)
常呂郡端野町	4 3 8	端野東一端野東、忠志小沢一忠志小沢、豊美東沢一豊美東沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川流域の新しい沖積及び小河川の流域に分布する低平地で、土壌断面形態はやや乱雑で一定しないが、一般に地表から石礫が出現し、礫層が浅い特徴を有る。このため甚しいところは早魃のおそれがあり、また逆に一部は排水不良を呈するところがある。養分含量は比較はあるが、有機物が少ない。

② 営農の方向、その他

そ菜、穀菽経営が行なわれ、一部は稲作が行なわれているが、今後は更に集約化されて行くべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
有機物施用	端野東一端野東 忠志小沢一忠志小沢 豊美東沢一豊美東沢 438ha	堆厩肥の施用 牧草の作付	指導の徹底	
施肥合理化	同 上	加里、苦土の増施 窒素質肥料の検討	緩効性窒素肥料の併用等	

② その他

局所的に分布する石礫の甚しいところは客土を要し、また排水不良なところは明渠排水等が必要であろう。

<川向南保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備考(該当土壌区)
常呂郡端野町	84	川向南一川向南、仁頃河段一仁頃河段

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

表土は黒色を呈する土壌であるが、下層は灰黄色を呈し未風化で下層に向かう程堅密になっている。このため停滞水或は伏流水によって排水不良となっている。地形は概ね平坦で侵蝕のおそれはない。土壌は磷酸、加里が少なく、下層は磷酸、塩基に不足している。

② 営農の方向、その他

地域的な問題もあつて一概に云えないが、更に集約化を図る方向に進むべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	川向南一川向南 仁頃河段一仁頃河段 84ha	暗渠排水、明渠排水の実施	工事費の助成	
施肥合理化	同 上	磷酸、加里、苦土に施肥の重点を置くこと。	指導	

4 調査成績一覧表

1) 土壌分析成績

水 田

保全対策区	土 壌 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学 性											
						風 乾 細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け る 理 学 100 cc 溶 中			
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 %	固 相 容 積 g	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc
端野中央	端野中央	北 ³⁵	1	0~12		32	63	223	26.1	48.4	29.6	220	CL				
			2	12~18		23	84	198	285	48.3	28.8	22.9	CL				
			3	18~36		1.6	81	38.5	16.1	54.6	19.5	25.9	LiC				
			4	36~43		3.1	45	45.5	27.2	72.7	14.0	13.3	SL				
端野中央西	川向沢	北 ⁶¹	1	0~14		1.1	4.9	9.6	45.7	55.3	23.8	20.9	CL				
			2	14~25		0.6	2.9	63.0	22.5	85.5	7.9	7.9	LS				
			3	25~43		4.1	-	2.3	48.9	51.2	19.8	29.0	LiC				
端野中央	端野南	北 ^{63B}	1	0~14		1.5	3.5	2.5	45.2	47.7	34.7	17.5	CL				
			2	14~25		2.0	2.0	1.2	29.7	30.9	41.4	27.7	LiC				
北登中央	北登中央	仁 ^{18B}	1	0~17		2.3	4.9	16.2	37.9	54.1	22.6	23.3	CL				
			2	17~35		0.5	1.7	20.2	48.0	68.2	11.9	20.1	SCL				
	豊美中央	仁 ^{22B}	1	0~16		2.6	4.8	12.5	32.4	44.9	26.9	28.2	LiC				
2			16~45		1.9	3.0	19.6	35.6	55.2	21.5	23.3	CL					
			3	45~70		3.3	2.0	4.4	16.7	21.1	32.1	46.8	HC				
端野中央西	緋牛内東	北 ⁶⁹	1	0~15		2.8	7.1	6.6	34.1	40.7	31.0	28.3	LiC				
			2	15~25		4.7	7.5	6.2	26.2	32.4	35.7	31.9	LiC				
			3	25~50		5.1	-	2.6	14.5	16.1	35.8	47.1	LiC				
端野中央西	端野中央	北 ³⁸	1	0~20		4.9	8.4	8.8	32.5	41.3	33.6	25.1	LiC				
			2	20~37		4.9	7.1	8.3	26.8	35.1	30.2	34.7	LiC				
			3	37~77		1.8	-	18.1	54.3	92.4	15.5	12.7	SL				
端野中央北	L	60	1	0~15		2.8	13.9	7.0	26.9	33.9	27.7	38.4	LiC				
			2	15~35		3.8	-	0.2	25.1	25.3	29.2	45.5	HC				

性	化 学 性																	
	pH		置換酸度 Y ₁	有機物			塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係數	乾土効果	30℃ NH ₃ -N 発生量		有効態 mg/100g		遊離酸化鉄%
	H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O				乾土	湿土	P ₂ O ₅	N	
	5.7	5.2	120	370	0.36	10	39.6	422.8	24.2	9.4	38.0	9.89	17.4	22.9	5.5	21.9	23.9	0.84
	5.9	5.1	120	490	0.49	10	38.3	509.6	18.1	14.1	47.4	11.60	10.8	10.8	-	10.6	10.8	1.67
	5.9	5.1	0.70	4.70	0.48	10	43.9	529.2	4.03	18.8	43.1	1.225	6.7	9.4	2.7	4.5	9.4	-
	6.2	5.0	1.90	2.63	0.36	9	3.62	1013.6	2.82	7.54	100.0	1.690	-	3.3	3.3	2.9	3.3	-
	5.3	4.8	1.90	2.83	0.33	9	2.60	392.0	12.10		5.38	10.30	15.0	22.9	7.9	10.1	22.9	1.39
	6.0	4.7	2.10	1.70	0.20	9	2.47	568.4	7.86		8.21	11.30	10.4	10.4	-	4.0	10.4	2.03
	6.4	4.9	0.30	-	-	-	2.78	632.8	11.89		8.12	12.10	-	-	-	1.7	-	-
	5.6	4.2	2.50	2.04	0.24	9	2.10	446.4	2.82		4.44	7.96	11.7	19.2	7.5	14.2	19.2	0.89
	5.8	4.7	0.60	1.14	0.17	7	2.43	792.0	7.26		67.9	10.10	4.6	9.2	4.6	-	9.2	1.81
	5.5	4.1	3.44	2.83	0.50	9	3.29	614.4	6.05	14.2	38.9	11.80	3.6	17.3	13.5	7.2	17.3	1.41
	6.1	4.9	0.50	1.00	0.14	7	3.18	964.8	3.83	23.5	6.32	9.70	3.6	4.6	1.0	1.6	1.6	1.75
	5.2	4.2	6.25	2.78	0.50	9	3.59	494.4	17.74	9.4	28.6	10.70	5.6	13.2	7.6	5.6	13.2	1.77
	6.2	4.7	0.50	1.75	0.18	10	2.93	691.2	5.24	9.4	49.1	1.520	-	-	-	-	-	2.22
	5.6	4.4	1.25	1.15	0.14	8	4.55	806.4	13.91	14.1	3.69	1.360	-	-	-	-	-	-
	5.5	4.4	8.80	4.07	0.41	10	4.16	494.4	6.0	18.8	2.47	24.30	1.0	11.7	10.9	4.5	11.7	1.34
	5.2	4.2	13.80	4.40	0.43	10	4.42	734.4	6.05	18.8	3.45	23.90	5.5	9.3	3.8	8.0	9.3	1.28
	5.1	3.8	9.40	-	-	-	4.29	739.2	6.05	18.8	3.5.8	12.20	-	-	-	0.8	-	-
	5.7	5.1	1.40	4.89	0.44	11	4.37	835.2	10.1	0.5	3.95	1.320	9.4	15.3	5.9	1.22	15.3	1.22
	5.9	5.2	0.50	4.10	0.36	11	4.88	1,075.2	3.83	1.84	4.59	1,195	9.9	1.75	7.4	8.0	1.75	1.38
	6.2	5.0	0.50	-	-	-	1.92	3.69.6	1.21	1.84	40.1	5.31	-	-	-	2.0	-	-
	5.2	4.4	1.88	8.07	0.66	12	5.26	1,051.2	6.85	5.0	4.1.6	2.960	1.34	1.87	5.3	10.4	1.87	1.77
	5.3	4.2	2.19	-	-	-	6.25	1,425.6	1.65.3	14.1	4.7.5	2.690	2.34	2.8.8	5.4	2.9	2.8.8	2.22

畑

保全 対策区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ	礫 (風乾物中) %	理 学										現地C 100	
						風乾細 土中		細土無機物中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc		
						水	腐	粗	細	砂	シ	粘					
						分 %	植 %	砂 %	砂 %	合 計 %	ル ト %	土 %					
川 向 東	開 拓	開 1	1	0~20		49	11.1	-	-	-	-	-	-				
			2	20~35		68	6.3	-	-	-	-	-	-				
			3	35~60		52	2.4	-	-	-	-	-	-				
	川向東	美 16B	1	0~23		33	9.2	16.9	3.94	56.3	26.0	1.77	CL	75.5	272		
			2	23~38		3.1	2.4	14.1	2.44	38.5	30.4	3.11	LiC	85.9	303		
			3	38~48		27	-	19.0	2.66	45.6	25.1	2.93	LiC	-	-		
	緋牛内	北 25	1	0~22		51	9.1	11.6	3.84	50.0	34.2	1.58	CL				
			2	22~35		45	4.5	13.2	5.97	72.9	20.5	0.66	SL				
	川向西	北 60	1	0~22		42	9.5	10.5	4.31	53.6	28.3	1.81	CL	76.8	286		
2			22~35		25	5.1	9.1	4.47	53.8	34.6	1.16	L	68.5	226			
3			35~57		48	-	9.0	5.12	60.2	31.4	0.84	L	78.0	26.2			
豊 美 西	協 和	北 28	1	0~18		0.8	5.7	11.4	3.73	48.7	28.0	23.3	CL	125.4	47.5		
			2	18~30		2.2	-	13.6	2.97	43.3	32.0	2.47	CL	148.8	58.2		
	豊美南	仁 25	1	0~20		0.5	4.7	16.8	3.52	52.0	28.1	1.99	CL	104.4	36.2		
			2	20~30		1.6	-	22.2	2.96	51.8	26.5	2.17	CL	142.7	50.5		
	豊美西	常 仁 10	1	0~13		0.6	4.4	9.5	3.47	44.2	30.3	2.55	CL				
			2	13~25		0.6	0.8	8.8	3.64	45.2	31.9	2.29	CL				
3	25~40		0.5	-	4.8	3.43	4.91	24.2	36.7	3.67	LiC						
4	40~		2.5	-	1.6	3.32	3.48	13.5	51.7	5.17	HC						
川 向 中 央	川向 中央	北 25D	1	0~20		3.0	4.9	20.9	3.39	54.8	29.6	1.56	CL	108.5	39.5		
			2	20~35		2.7	2.2	17.2	2.98	47.0	31.9	2.11	CL	126.6	43.1		
			3	35~60		1.7	-	16.9	3.04	47.3	31.9	2.20	CL	158.5	59.7		
忠 志	忠 志	北 60	1	0~20		4.5	3.8	0.9	44.9	45.8	3.27	2.15	CL				
			2	20~60		2.9	2.0	0.4	4.78	4.82	3.15	2.03	CL				
			3	60~100		4.0	-	0.9	3.62	3.71	3.58	2.71	CL				
	端野北	北 63	1	0~24		2.6	2.4	7.2	5.86	6.58	2.31	1.11	SL	85.7	28.2		
2			24~54		0.7	3.0	1.2	5.05	5.17	2.9.0	1.93	CL	9.67	36.2			
3			54~72		1.4	-	0.3	6.15	6.18	2.27	1.55	L	9.27	32.5			
4			72~		3.5	-	0.8	3.26	3.34	4.12	2.54	LiC	-	-			
端 野 東	端野東	北 58	1	0~20		-	2.1	2.22	4.7.9	7.01	1.67	1.32	SL				
			2	20~38		-	1.7	1.34	5.38	6.7.2	2.02	1.26	SL				
	忠志 小沢	北 23B	1	0~20		3.8	3.5	7.9	43.9	5.18	2.17	2.65	LiC				
2	20~35		2.7	1.7	8.9	5.6.0	6.4.7	1.3.1	2.2.0	SCL							

性			化 学 性												
おける理学性 cc 容 中			pH		置 換 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 me/100g
水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N %		CaO	MgO	K ₂ O			
			47	43	5.00	644	038	17	284	2856	340	-	359	848	-
			53	43	570	3.65	027	14	213	1036	120	-	17.3	1,618	-
			59	51	070	1.39	010	14	103	476	140	-	16.5	1,271	-
27.5	453	728	5.55	465	060	5.33	432	12	309	458.7	52.2	8.6	53.1	1,030	140
28.1	416	697	5.65	445	060	1.48	017	9	268	390.3	446	19.2	51.9	1,120	12
			585	445	060	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	59	495	030	5.31	044	12	295	4666	288	37.9	56.3	1,870	89
-	-	-	605	515	030	2.64	024	11	227	2627	156.2	182	41.4	2,440	-
350	364	71.4	5.45	445	1.88	5.51	045	12	240	2493	89	393	37.1	1,810	54
41.0	36.4	77.4	5.3	445	1.25	2.95	028	11	193	1430	23.0	158	26.4	1,790	04
398	34.0	738	5.45	435	2.19	-	-	-	187	124.2	36.9	22.1	23.5	2,310	04
320	205	525	5.55	435	060	3.30	025	13	21.1	3776	30.2	25.4	56.9	909	11.3
33.8	8.0	41.8	5.75	435	060	-	-	-	158	2439	52	15.3	55.1	877	04
318	320	638	5.6	44	1.25	2.70	021	13	187	266.4	403	11.5	50.8	767	84
280	21.5	495	5.7	43	1.56	-	-	-	146	226.8	30.4	11.0	55.5	725	08
			5.7	4.4	1.25	2.56	023	11	19.5	2226	62.0	3.8	49.7	747	7.6
			5.4	4.0	4.38	-	-	-	127	187.6	42.0	4.3	37.0	606	tr
			4.9	3.8	6.88	-	-	-	158	2038	74.0	7.6	46.2	626	tr
			4.8	3.6	8.44	-	-	-	21.8	2632	166.0	12.0	43.1	742	tr
365	240	605	5.95	475	030	2.84	024	12	22.1	406.3	595	705	65.6	886	17.7
286	283	56.9	6.0	485	030	1.26	012	10	21.0	394.2	722	33.6	67.1	989	1.6
274	129	403	5.85	455	060	-	-	-	26.1	496.6	132.5	12.0	67.8	1,205	1.6
			6.0	02	21.6	20.5	9	4.11	893.2	420	480	77.6	1,155	40.0	
			5.3	0.2	1.15	0.15	8	35.8	738.4	520	33.6	63.7	1,030	16.1	
			5.1	0.5	-	-	-	4.12	691.6	1000	240	600	1,370	20.4	
205	513	71.8	5.75	495	030	1.37	015	8	21.0	401.3	41.4	158.3	68.1	621	40.0
367	27.1	63.8	5.75	505	030	1.71	021	8	27.4	575.9	65.5	19.0	74.8	990	15.7
406	26.9	67.5	6.05	505	030	-	-	-	27.9	614.6	73.2	18.2	78.5	869	15.8
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,100	10.4
			5.4	4.5	3.0	1.24	016	8	17.2	308.0	72.0	35.0	63.9	48.0	28.4
			6.4	5.4	03	0.98	016	6	21.0	458.4	64.0	15.8	78.1	400	17.2
			6.2	5.4	030	2.30	023	9	44.9	943.6	158.0	24.0	75.1	1,290	18.3
			6.2	5.3	020	0.93	010	9	42.3	810.4	118.0	14.4	69.3	1,360	16.4

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学							現地に 100		
						風乾細 土中		細土無機物中					土 性	容積 重 g	固相 容積 cc
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %			
端野東	豊美 東沢	仁 ₂₀	1	0~15		23	38	148	469	61.7	22.0	163	CL	-	-
			2	15~30		39	13	16.0	453	61.3	21.0	177	CL	-	-
川向 南	川向 南	北 ₃₀	1	0~17		28	54	155	280	435	26.8	297	CL	-	-
			2	17~35		3.0	05	108	249	35.7	36.4	279	LiC	-	-
			3	35~50		3.1	-	405	30.4	70.9	12.1	17.0	SCL	-	-
仁 頃	北登西	仁 ₇	1	0~25		0.9	62	11.8	338	45.6	33.8	206	CL	-	-
			2	25~45		2.8	20	14.7	32.4	47.1	32.5	20.4	CL	-	-
	川向 南東	美 ₁₆	1	0~20		3.4	83	15.2	37.0	52.2	28.8	19.0	CL	-	-
			2	20~30		2.1	30	20.8	28.4	49.2	27.9	22.9	CL	-	-
	豊美東	仁 ₆	1	0~20		3.4	57	17.3	28.4	45.7	33.2	21.1	CL	838	307
			2	20~35		0.2	20	11.9	30.6	42.5	43.0	14.5	L	117.1	42.0
3	35~		1.0	-	17.9	33.5	51.4	29.1	19.5	CL	-	-			
仁頃	仁頃	仁 _{8B}	1	0~20		2.4	66	13.4	36.3	49.9	29.5	20.8	CL	-	-
			2	20~35		1.5	1.6	11.7	33.7	45.4	31.1	23.5	CL	-	-
忠志	端野西	北 ₇₁	1	0~20		0.6	44	24.0	37.8	61.8	18.0	20.2	SCL	-	-
			2	20~60		2.1	-	26.4	31.3	57.7	19.4	22.9	SCL	-	-
川向 東	仁頃 河岸	仁 _{15C}	1	0~25		3.3	9.5	2.1	46.9	49.0	27.4	23.6	CL	-	-
			2	25~50		2.6	2.9	5.2	33.6	38.8	31.0	30.2	LiC	-	-
川向 南	仁頃 河段	仁 ₁₅	1	0~27		3.2	9.5	7.9	40.0	47.9	23.6	28.5	LiC	-	-
			2	27~40		1.9	1.3	24.7	39.6	64.3	19.7	16.0	SCL	-	-
			3	40~70		0.9	-	13.6	55.2	68.8	19.3	11.9	SL	-	-

性			化学性												
おける理学性 cc 容中			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
-	-	-	60	465	125	205	0.18	11	340	7145	1335	264	75.0	1285	7.0
-	-	-	585	425	0.30	0.74	0.08	10	35.2	6752	192.9	129	685	1415	4.2
-	-	-	535	415	281	3.17	0.36	9	257	3348	562	7.2	463	1020	7.6
-	-	-	525	375	1063	-	-	-	247	3452	766	6.2	49.8	980	2.1
-	-	-	525	375	938	-	-	-	249	3382	1189	6.2	48.6	1010	1.6
-	-	-	61	485	0.30	357	0.30	12	20.6	456.0	99	101	757	-	18.6
-	-	-	62	475	0.30	1.18	0.11	10	15.6	2798	36.1	125	64.1	-	6.6
-	-	-	635	535	0.30	482	0.42	12	31.2	501.4	30.6	33.6	89.4	1100	1.3
-	-	-	575	455	0.60	1.76	0.19	9	19.3	3138	53.2	25.4	58.0	909	0.4
21.3	480	693	60	4.9	0.30	3.27	0.30	10	21.9	476.4	41.5	12.5	73.5	660	16.1
27.0	31.0	580	6.5	5.1	0.30	1.17	0.15	7	16.3	331.7	22.4	19.7	39.1	633	7.2
-	-	-	-	4.7	3.3	-	-	-	20.0	167.4	40.1	11.0	78.0	-	-
-	-	-	62	52	0.30	38.4	0.35	11	27.4	697.2	78.0	17.7	90.6	816	5.7
-	-	-	63	46	0.30	0.92	0.10	9	17.6	380.8	52.0	4.3	83.6	836	2.8
-	-	-	61	4.6	0.30	25.8	0.29	9	44.8	932.4	62.0	14.4	74.3	1395	23.3
-	-	-	63	4.3	0.60	-	-	-	44.7	1083.6	58.0	9.6	86.6	1690	7.4
-	-	-	53	4.0	3.10	55.0	0.51	11	29.2	403.2	114.0	20.1	49.2	1170	19.7
-	-	-	52	4.4	1.30	1.70	0.19	9	37.3	585.2	52.0	33.0	56.1	989	1.7
-	-	-	54	4.3	2.50	55.3	0.52	11	35.3	366.8	38.0	7.7	37.1	1260	20.0
-	-	-	53	4.0	4.69	0.74	0.12	6	14.5	145.6	34.0	7.7	35.9	612	8.6
-	-	-	54	4.0	2.81	-	-	-	14.1	193.2	66.0	15.8	48.5	646	1.2